

PoE BOOT
nino
PoE8M2

(FW:4.20A用)
詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リブーター PoE BOOT nino PoE8M2をご購入いただきありがとうございます。

PoE BOOT nino PoE8M2はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする遠隔自動電源制御装置です。2個の100V AC電源を個別に遠隔制御／管理できます。また、PoEハブの8個のポートを個別に遠隔制御／管理できます。

また、NTPサーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になれます。

PoE BOOT nino PoE8M2が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. セットアップガイド 兼 保証書
2. 3P/2P変換プラグ



弊社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/> に、運用に便利なソフト等がありますのでダウンロードしてご利用ください。

1. 取扱説明書(詳細版) PDFファイル(本書)
2. RPCサーチソフト
3. ネットワーク稼動監視ソフト
4. プライベートMIBファイル
5. PoEスイッチ連携スクリプト

安全上のご注意



この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘ は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は ⊘ の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	● は、強制(必ずすること)を示します。具体的な強制内容は、● の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。
特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは10.5Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で10.5Aです。
合計10.5Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量10.5Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコンおよびパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。
人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。

万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない

遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は本装置のアウトレットおよび本装置が制御するPoEインテリジェントハブの給電ポートに接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な機器のみ接続してください。接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB、PoE給電ポート、接点出力等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。

コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。

定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●DIPスイッチの操作に金属製のもの、鋭利なものを使用しない

DIPスイッチのレバーを操作する時には、先端が丸みのある柔らかい木製のものを使用してください。硬い金属製のもの、鋭利なものを使用すると、レバーを破損してしまったり、接点部の接触に支障をきたしてしまったりする恐れがあります。



DIPスイッチ操作

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

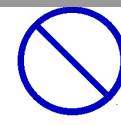
ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。

倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目 次

安全上のご注意	3
目 次	8
第1章 はじめに	11
1. 機能概要	12
2. 各部の名称と機能	13
3. DIPスイッチの設定	14
4. LED表示について	15
第2章 設置・取付	16
1. 設置・取付	17
2. ラックへの取付	17
3. 固定方法	17
第3章 初期設定	18
1. 初期設定	19
[1] 使用条件の確認と同意	19
2. 初期化の方法	22
第4章 Webブラウザでの設定, 制御	23
1. ログイン	24
[1] IPアドレスを固定にして利用する場合	24
[2] RPCサーチソフトを利用する場合	26
2. 入力可能な半角文字について	27
[1] 入力可能な半角文字について	27
3. PoE機器管理設定	28
[1] HUB・機器設定	28
[2] PoE 機器監視	34
4. 機器設定	37
[1] システム設定	37
[2] ネットワーク設定	53
[3] 監視設定	67
[4] スケジュール	76
[5] システム情報	78
[6] 簡易説明	79
[7] CPUリセット	79
5. 状態表示	80
[1] 簡易状態表示	80
[2] 詳細情報表示	82
6. 制御	87
[1] 電源制御	87
[2] PoE出力制御	90
第5章 その他の設定	93
1. Telnetによる設定	94
[1] Telnetでの接続方法	94
[2] Telnetコマンドによる設定	95

第6章	その他の制御	97
1.	Telnet接続による制御	98
[1]	Telnet接続による制御	98
2.	メールからの制御	100
3.	WEBコマンドからの制御	101
4.	MPMPでの制御	102
[1]	リブーター側の設定	102
[2]	MPMPパケット送信	103
第7章	一斉電源制御	104
1.	一斉電源制御とは	105
[1]	概要	105
2.	親機として使用する場合	106
[1]	設定	106
[2]	WEBでの制御	106
[3]	Telnetでの制御	108
3.	子機として使用する場合	109
[1]	設定	109
[2]	待受状態時の制御・設定	112
第8章	ロギング機能	113
1.	ロギング機能の設定・表示	114
第9章	SNMPエージェント機能	117
1.	SNMPについて	118
2.	機器設定	118
3.	MIBについて	120
第10章	ネットワーク稼働監視	121
1.	機器設定	122
2.	RPC EYE V4の利用	123
第11章	PoEハブとの接続	124
1.	概要	125
2.	接続・設定	126
[1]	設定方法	126
3.	制御モード	126
[1]	PoEハブ 制御モードによる相違点	126
4.	受電デバイスの死活監視	128
5.	PoE機器ポート監視	129
[1]	監視方法	129
[2]	結果監視	130
6.	通知	131
[1]	ログ	131
[2]	メール通知	132
[3]	エラーコード	132
7.	PoEハブ制御用スクリプト	133
[1]	スクリプトについて	133
[2]	スクリプト構成(「一般」モード用)	137
第12章	仕様一覧	138

■変数一覧表	139
■ログ一覧表.....	147
■制御コマンド一覧表	150
■仕様一覧表	153

第1章 はじめに

1. 機能概要

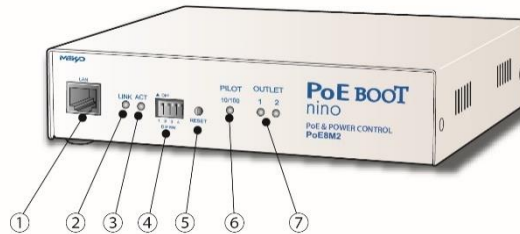
本装置には以下の機能があります。

- 1) 2個の100V AC電源を個別に制御/管理
 - 2) 通信による電源制御
 - ・WEBからの電源制御と設定
 - ・Telnetからの電源制御と設定
 - 3) スケジュールによる制御
 - ・週間スケジュールによる電源制御
 - 4) 監視機能
 - ・電源状態の監視
 - ・ICMPによる死活監視(Ping監視)
 - ・ハートビートによる監視
 - 5) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
 - 6) メールによる制御や通知
 - 7) センター通知機能
 - ・電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - ・(MSRP)RPC EYE V4対応

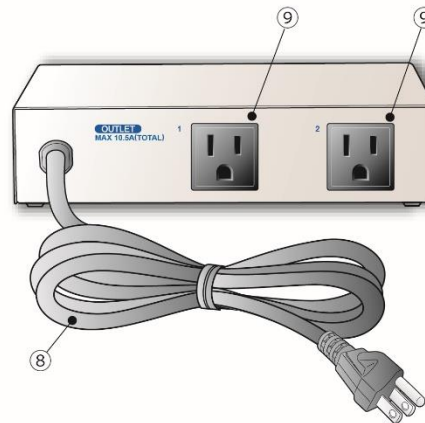
MSRPは、明京電機独自のプロトコルです。
 - 8) SNMPエージェント機能
 - 9) 通信による遠隔バージョンアップ
 - 10) 通信中継機能(Telnet通信)
 - ・Telnetクライアントとして通信
 - 11) マジックパケットによる起動
 - 12) PoEハブに接続されている受電デバイスへの給電ON・OFF・REBOOT
 - ・WEB画面からの制御, メールによるコマンド制御, ダイレクトWEBコマンドでの制御
 - ・受電デバイスに対するPing監視
 - ・受電デバイスに対するポート監視
- ☆設定について詳しくは第4章3.PoE機器管理設定をご覧ください。
- 13) 弊社サービス「電源管理クラウド365」との連携による電源状態/監視状態管理, 電源制御

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リアパネル



① LAN	LANケーブル(8ピンRJ45)を接続します。
② LINK LED	CPU状態を表示します。
③ ACT LED	通信状態を表示します。
④ DIPスイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑤ RESETスイッチ	出力電源へ影響を与えずにCPUを初期化します。
⑥ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑦ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑧ 電源コード	商用電源, UPS(正弦波出力タイプ)などに接続します。
⑨ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能(OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	初期化
2	OFF	運転モード
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード, 初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	

注意

DIPスイッチのレバーを操作する時には、金属製のものや鋭利なものを使用せず、先端が丸みを帯びている木製のものを使用してください。

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

☆初期設定は、第3章1.初期設定 を参照して設定してください。

4. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK LED, ACT LED

CPUの通信状態を表示します。

LED	用途	状態	表示
LINK	CPU状態	ケーブル抜け LAN正常リンク	0.25秒点灯, 0.25秒消灯 1秒点灯, 1秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合, オレンジが点灯します。

本体に電源投入され, 100BASE-TXリンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視(PING監視, メールサーバー監視)リポート回数の合計が設定値を越えたら赤色に点灯します。(初期値は12回)

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF遅延中, 1秒点滅

③ Ping監視

1. [動作]が「リブート」または「ログのみ」の場合

(ア)監視異常中(出力ON)は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し, その後点灯します。(出力はON)

2. [動作]が「ON」の場合

(ア)監視異常中(出力ON)は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒消灯→0.25秒点灯を繰り返し, その後消灯します。(出力はOFF)

3. [動作]が「OFF」の場合

(ア)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し, その後点灯します。(出力はON)

Ping監視の[動作], 「ON」「OFF」の設定はブラウザーからは行えません。

変数[debOlWdogAction]を直接変更する必要があります。

第2章

設置・取付

1. 設置・取付

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相100VAC/10.5A以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取付

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1)ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2)ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3)本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4)電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴(4箇所)を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L(MAX)をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具ATT02が便利です。
詳細につきましては、弊社ホームページをご覧ください。
<https://www.meikyo.co.jp/product/?ca=5>

第3章 初期設定

1. 初期設定

[1] 使用条件の確認と同意

本製品の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定のIPアドレスを設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。

PCがオートMDI/MDI-X非対応の場合は、クロスLANケーブルを使用してください。

1) LANやVPN上に192.168.10.1および2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。

2) 設定用PCのIPアドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。

IPアドレス : 192.168.10.2

サブネットマスク : 255.255.255.0

3) 本体前面のDIPスイッチ3をONにします。

(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)

注意 メンテナンスモードの場合、LANの通信速度は10BASE-Tでつながる設定になっている必要があります。

4) 本体前面のRESETスイッチを押します。

5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。

http://192.168.10.1を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザーはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」の「ブラウザにはどれを使用すればいいですか?」をご覧ください。

<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

- 6) ブラウザー依存のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。

注意 ブラウザーによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

- 7) 「ご確認のお願い」の画面が表示されます。内容を確認の上「上記の内容に同意します。」をチェックし「次へ」をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ
遠隔制御機能を有効化できます。

PoE8M2

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁止されています。

したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び傷害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットおよび本装置が制御するPoEインテリジェンスハブの給電ポートに接続してはなりません。

特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。

接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。

また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な装置のみを接続してください。

☐ 上記の内容に同意します。

次へ

- 8) 「メンテナンスモード機器設定」画面が表示されます。

メンテナンスモード 機器設定

モデル名	PoE8M2
バージョン	4.00A.230112
MAC アドレス	00:09:EE:02:8C:44
IP アドレス	<input type="text" value="192.168.10.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNS サーバーアドレス	<input type="text"/>
DHCP 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	<input type="text" value="80"/>
Telnet 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Telnet ポート	<input type="text" value="23"/>
通信速度	<input type="text" value="自動接続"/> ▼
IP フィルター	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
子機グループ	<input type="text" value="Disabled"/> ▼
親機MACアドレス	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>

適用

9)IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。

運用時にIPアドレスを固定にして利用する場合、「DHCP機能」を無効にチェックしたままで、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。

DHCPを利用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を有効にチェックして「適用」をクリックします。

10)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

11)その他、「Telnet機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了しましたら、「適用」をクリックします。

12)本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)

13)本体前面のRESETスイッチを押します。

14)Webブラウザを閉じます。

15)設定用PCのIPアドレスを元に戻します。

注意	設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESETスイッチ」を押してください。 「RESETスイッチ」を押さないと設定が反映されません。
----	--

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON(下)にします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK LEDが5秒間点灯します。
点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINK LEDが消灯してしまった場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチ3のみON(下)にし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 初期化後は再度、使用条件の確認と同意が必要になりますので、「第3章1.初期設定」から実行してください。

注意	初期化中は本体の電源を切らないで下さい。
----	----------------------

第4章

WEBブラウザでの 設定, 制御

1. ログイン

[1] IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。

(PROXY経由ではご利用になれません)

注意 ブラウザーはJavaScriptとフレームに対応する必要があります。

推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」をご覧ください。

<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

1) Webブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

例 IPアドレス : 192.168.10.1

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合:http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合:http://192.168.10.1:500

2) ブラウザー依存のユーザー名／パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

注意 ブラウザーによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

3) ユーザーIDとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザーID : admin (デフォルト)

パスワード : magic (デフォルト)

4)簡易情報表示画面が表示されます。

簡易状態表示

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

PoE対象状態

PoeDev1			PoeDev2			PoeDev3			PoeDev4		
1	NA	ON	2	NA	無効	3	NA	無効	4	NA	無効

PoeDev5			PoeDev6			PoeDev7			PoeDev8		
5	NA	無効	6	NA	無効	7	NA	無効	8	NA	無効

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON

注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

「排他制御方式」選択時, 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合, 当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし, Ident, Supervisor権限ではログインすることが可能です。

☆ユーザーアカウントの設定については, 第4章4.[1](5)セキュリティ をご確認ください。

●「ガードタイム方式」選択時, 多重ログインが可能です。(ただし, 同時接続可能数は本装置の仕様で, HTTP通信では4端末, Telnet通信では2端末までとなります。)

スマートフォンでご使用の場合, 「横向き」が標準仕様となります。(「縦向き」でご使用になると, 横スクロールの必要が生じます。)

リブーターの画面をWEBブラウザで開いている際, セキュリティの観点から別タブにて別ページを閲覧しないようにしてください。

[2] RPCサーチソフトを利用する場合

RPCサーチソフトを利用すれば同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP機能を利用した本装置を検索し接続するのに役立ちます。RPCサーチソフトは弊社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/#rpcsearch> よりダウンロードしてください。

設定用PCと本装置を、DHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。
- 2) 機器一覧にある本装置を選択し、「WEB接続」ボタンをクリックします。



- 3) ユーザー名(デフォルト: admin)とパスワード(デフォルト: magic)を入力します。

注意 :「WEB接続」の場合はブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

- 4) 簡易情報表示画面が表示されます。

注意 「LINK」LED/「ACT」LED/「PILOT」LEDが、いつまでも交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

2. 入力可能な半角文字について

[1] 入力可能な半角文字について

WEB画面の各種設定項目にて「半角英数記号__字以内」となっている項目については下記の図のとおりとなります。

		下1桁															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
上 1 桁	20	space	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
	40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[¥]	^	_
	60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

→使える文字
 →使えない文字
 →各種権限ログインID、パスワードには使用不可

そして、「半角__字以内」となっている項目は、上記の表の文字に加えて、半角カナも使用可能です。

ただし、

・「ネットワーク設定」-「メール設定」-「メールサーバー設定」の「パスワード」

に関しては、

		下1桁															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
上 1 桁	20	space	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
	40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[¥]	^	_
	60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

→使える文字
 →使えない文字

となります。

3. PoE機器管理設定

[1] HUB・機器設定

(1) HUB・機器設定

画面左側設定項目の「HUB・機器設定」をクリックします。

「システム設定」-「詳細設定」-「PoE HUB接続」とクリックした場合と同じ画面となります。

〈1〉 PoE 制御モード

接続するPoEハブのメーカーに合わせてモードを選択後、「変更」をクリックします。

PoE HUB接続

PoE 制御モード

制御モード: パナソニックLSネットワークス製品 ▼ 変更

制御モードを変更される場合は、設定変更後「変更」ボタンをクリックし、まずCPUリセットを実行してから、他の設定項目を変更してください。

制御モード : パナソニックLSネットワークス製品
一般
APRESIA SNMP制御

画面左側, 設定項目の「CPUリセット」ボタンをクリックします。

注意 「PoE HUB設定」を行う前にモードの変更を行ってください。
「制御モード」の設定によって、「電源制御/PoE出力制御」の画面表示が変わります。
☆詳しくは、本項に続く〈2〉PoE HUB接続, 〈3〉PoE HUB設定(パナソニックLSネットワークス製品・一般), 〈4〉PoE HUB設定 (APRESIA SNMP制御), 第11章3[1]PoEハブ制御モードによる相違点をご覧ください。
「制御モード」を変更するには、[変更]クリック後、「CPUリセット」を行う必要があります。
画面下部の「適用」ボタンではモード変更されません。

〈2〉 PoE HUB接続

「パナソニックLSネットワークス製品」モード, 「一般」モードでの場合, 接続するPoEハブに合わせてスクリプトを編集, 登録します。

PoE HUB 接続

接続スクリプト

スクリプト1編集

スクリプト2編集

スクリプト3編集

スクリプト4編集

「スクリプト1」には、パナソニックLSネットワークス株式会社製MNOシリーズPoEハブ用のスクリプトが入っています。

「スクリプト2～4」はデフォルトでスクリプトファイルが入っていません。他社製PoEハブ用のスクリ

プトを読み込んで使用していただくことができます。

弊社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/> から,いくつかのサンプルスクリプトを入手することが可能です。

☆スクリプト関数に関しては第11章7.PoEハブ制御用スクリプトをご覧ください。

〈3〉PoE HUB設定(パナソニックLSネットワークス製品・一般)

「パナソニックLSネットワークス製品」モード,「一般」モードでのメニューです。

PoE HUB設定		
1	名称	PoeHub1
	IPアドレス	
	TELNETポート	23
	ログインID	manager
	パスワード	manager
	スクリプト番号	1
2	名称	PoeHub2
	IPアドレス	
	TELNETポート	23
	ログインID	
	パスワード	
	スクリプト番号	1
3	名称	PoeHub3
	IPアドレス	
	TELNETポート	23
	ログインID	
	パスワード	
	スクリプト番号	1
	名称	PoeHub4

【各HUB設定項目】

- 名称 : PoEハブの名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
- IPアドレス : PoEハブのIPアドレスを設定します
- Telnetポート : 23(デフォルト)※1
- ログインID・パスワード : PoEハブにTelnet接続しログインする際に使用するIDを設定します(各最大半角16文字)※1, ※3
- スクリプト番号 : PoEハブを制御するためのスクリプトを選択します。※2
(デフォルト:1)

※1 本装置はデフォルトで, PoEハブ 1番にパナソニックLSネットワークス社製MNOシリーズ(ギガ対応)用のTelnetポート番号, ログインID, パスワード, スクリプト番号を設定しています。また, スクリプト1番にMNOシリーズ(ギガ対応)制御用のスクリプトをデフォルトで設定しています。これらの設定は必要に応じて調整してください。

- ※2 MNOシリーズの非ギガ対応機については専用のスクリプトを使用します。(スクリプトファイルを弊社ウェブサイト <https://www.meikyo.co.jp/archive/> からダウンロードできます。)
- ※3 一般モードを使用する場合は、使用されるPoEハブの設定にしたがって、ログインID、パスワードを指定してください。また、PoEハブの制御用のスクリプトファイルを設定し、「スクリプト番号」を合わせてください。

【HUB共通設定項目】

以下はモードによって内容が異なります。

【パナソニックLSネットワーク製品モード】

状態取得間隔	5 分
リブートOFF/ON間隔	10 秒
設定状態確認時間	5 秒
設定強制確認時間	15 秒
Ping制御モード	NONE状態でも有効 ▼

- 状態取得間隔 : PoEハブに接続されている受電デバイスの状態を取得する間隔を設定します。(デフォルト:5分)
- リブートOFF/ON間隔 : 受電デバイスに対して「REBOOT」コマンドを発した時、OFFになってからONになるまでの間隔を設定します。(デフォルト:10秒)
- 設定状態確認時間 : 受電デバイスに対して「ON・OFF・REBOOT」コマンドを発してからその状態を確認するまでの遅延時間を設定します。(デフォルト:5秒)
- 設定強制確認時間 : 設定状態確認時間を過ぎても、他に実行コマンドがキューイングされていて状態確認をする間がないときに強制的に確認を実行するまでの時間を設定します。(デフォルト:15秒)
- Ping制御モード : 受電デバイスの給電設定/給電状態が「NONE」「不明」時にPing監視を行うか行わないかを設定します。(デフォルト:NONE状態でも有効)

【一般モード】

リブートOFF/ON間隔	10 秒
Ping制御モード	NONE状態でも有効 ▼

- リブートOFF/ON間隔 : 受電デバイスに対して「REBOOT」コマンドを発した時、OFFになってからONになるまでの間隔を設定します。(デフォルト:10秒)
- Ping制御モード : 受電デバイスの給電設定/給電状態が「NONE」「不明」時にPing監視を行うか行わないかを設定します。(デフォルト:NONE状態でも有効)

〈4〉 PoE HUB設定 (APRESIA SNMP制御)

「APRESIA SNMP制御」モードのメニューです。

PoE HUB設定 (SNMP)		
1	名称	PoeHub1
	IPアドレス	
	SNMPポート	161
	コミュニティ名	private
2	名称	PoeHub2
	IPアドレス	
	SNMPポート	161
	コミュニティ名	
3	名称	PoeHub3
	IPアドレス	
	SNMPポート	161
	コミュニティ名	
4	名称	PoeHub4
	IPアドレス	
	SNMPポート	161
	コミュニティ名	

【各HUB設定項目】

- 名称 : PoEハブの名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
- IPアドレス : PoEハブのIPアドレスを設定します。
- SNMPポート : 161(デフォルト)
- コミュニティ名 : SNMP制御用コミュニティ名を設定します。
(全角16文字, 半角32文字以内)
給電制御の権限があるコミュニティ名を指定してください。
(デフォルト private)

【HUB共通設定項目】

リポートOFF/ON間隔	10 秒
給電制御用OID	1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.3.0
ステータス用OID	1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.10.0
給電制御用OID名称	poePortAdminState
ステータス用OID名称	poePortStatus
給電ON用設定値	1
給電OFF用設定値	2
Ping制御モード	NONE状態でも有効 ▼

リポートOFF/ON間隔 : 受電デバイスに対して「REBOOT」コマンドを発した時, OFFになってからONになるまでの間隔を設定します。(デフォルト:10秒)

給電制御用OID : 1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.3.0(デフォルト)

ステータス用OID : 1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.10.0(デフォルト)

給電制御用OID名称 : 給電制御用OID名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
(デフォルト poePortAdminState)

ステータス用OID名称 : 給電ステータス参照用OID名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
(デフォルト poePortStatus)

給電ON用設定値 : 1(デフォルト)

給電OFF用設定値 : 2(デフォルト)

Ping制御モード : 受電デバイスの給電設定/給電状態が「NONE」「不明」時にPing監視を行うか行わないかを設定します。(デフォルト:NONE状態でも有効)

〈5〉 PoE 機器設定

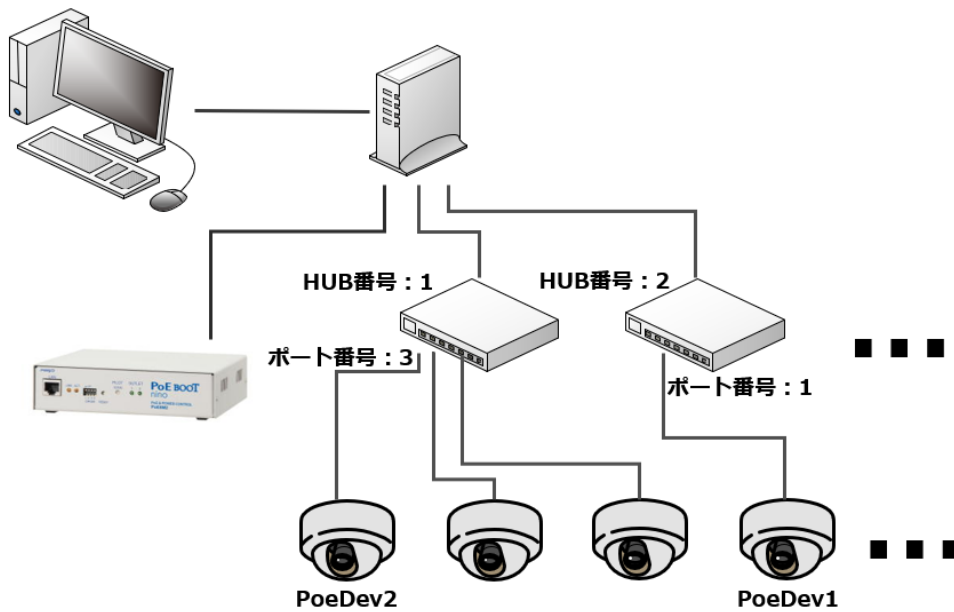
「システム設定」-「基本設定」で表示される「PoE機器設定」と同じ内容となります。

PoE機器設定				
No.	PoE機器名称	制御	HUB番号	ポート番号
1	PoeDev1	無効 ▼	1 ▼	0
2	PoeDev2	無効 ▼	1 ▼	0
3	PoeDev3	無効 ▼	1 ▼	0
4	PoeDev4	無効 ▼	1 ▼	0
5	PoeDev5	無効 ▼	1 ▼	0
6	PoeDev6	無効 ▼	1 ▼	0
7	PoeDev7	無効 ▼	1 ▼	0
8	PoeDev8	無効 ▼	1 ▼	0

PoEハブに接続された受電デバイスに関する設定をします。

- PoE機器名称 : 受電デバイス名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
- 制御 : 受電デバイスへの給電制御の有効/無効を設定します。
- HUB番号 : 先の<3>または<4>で設定した番号を設定します。
- ポート番号 : 受電デバイスが接続されている, PoEハブのポート番号を設定します。

<例>



図のように機器の接続を行う場合、設定は以下となります。

PoE 機器設定				
No.	PoE機器名称	制御	HUB番号	ポート番号
1	PoeDev1	有効 ▾	2 ▾	1
2	PoeDev2	有効 ▾	1 ▾	3

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

[2] PoE 機器監視

(1) PoE機器Ping監視

「PoE 機器監視」をクリックします。

受電デバイスにIPアドレスが設定されている場合、そのIPアドレスにPingを送信して監視し、異常を検知したときにはリブートを行うことができます。

本装置では8個の受電デバイスに対してPing監視を行うことができます。

- 機器名称 : 設定されている受電デバイスの名称が表示されます。
- 送信 : Ping監視送信回数を設定します。(範囲:1~100)※
- 無答 : Ping監視無応答回数を設定します。(範囲:1~100)※
- 監視先アドレス : 受電デバイスに割り当てられているIPアドレスを入力します。
- 動作 : Ping監視によって「異常」と判断された時に実行する動作を指定します。
[無動作][Logのみ][Reboot]
なお、「無動作」を指定した場合は、Ping送信は実施しません。
- 回数 : 再Reboot回数を設定します。(範囲:1~100)
- 間隔 : 再Reboot間隔(分)を設定します。(範囲:1~60)

※ 異常状態を定義するための設定です。Pingの「送信」回数あたりに「無答」回数のPing無応答を検出した場合に異常と判断します。

☆Ping監視の仕組みと動作につきましては、第4章4.[3](1)Ping監視の資料をご覧ください。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

オプションとして、「PoE機器管理設定」の「HUB・機器設定」画面で「Ping制御モード」が設定できます。

Ping制御モード	NONE状態では無効 ▼
-----------	--------------

Ping制御モード : 受電デバイスの給電設定/給電状態が「NONE」「不明」時にPing監視を行うか行わないかを設定します。

注意 Pingの送信間隔は「機器設定」-「監視設定」-「Ping監視」にて設定を行う、「Ping送信間隔」と同じ間隔になります。
 ☆第4章4.[3](1)Ping監視をご覧ください。

受電デバイスへの「PoE機器Ping監視」では「約1時間後の再リブート」は実行されません。

PoE機器ポート監視が有効設定されている場合は、PoE機器Ping監視は実行されません。

(2) PoE機器ポート監視

画面左側設定項目の「PoE 機器監視」-「PoE機器ポート監視」をクリックします。

PoE機器 監視設定 / PoE機器Ping監視				
PoE機器Ping監視		PoE機器ポート監視		
PoE機器Ping監視設定				
1	機器名称	送信	無答	
	PoeDev1	10	10	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
		無動作 ▼	1	1
2	機器名称	送信	無答	
	PoeDev2	10	10	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
		無動作 ▼	1	1
3	機器名称	送信	無答	
	PoeDev3	10	10	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
		無動作 ▼	1	1
4	機器名称	送信	無答	
	PoeDev4	10	10	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
		無動作 ▼	1	1

受電デバイスに対応するIPアドレス, ポートに対してポート監視(SYNスキャン)を実施し, ポートが稼働しているかどうかを定期的にチェックします。通信途絶や異常を検出したときにリブートを行うこともできます。

本装置では8個の受電デバイスに対してポート監視を行うことができます。

- 機器名称 : 設定されている受電デバイスの名称を表示します。
- 送信 : 判断を行うためのSYN送信回数を設定します。(範囲:1~100)
- 無効 : 「送信」回数内で『異常』と判断するNG回数数を設定します。(範囲:1~100)
- 監視先アドレス : SYN送信先IPアドレスを入力します。
- ポート : SYN送信先ポート番号を入力します。
- 動作 : ポート監視によって「異常」と判断された時に実行する動作を指定します。
[無動作][Reboot]
- 回数 : 「動作」が[Reboot]時の再Reboot回数を設定します。(範囲:1~100)
- 間隔 : 「動作」が[Reboot]時の実行間隔(分)を設定します。(範囲:1~60)

ポート監視実行間隔(分)	<input type="text" value="1"/>
装置側ポート番号	<input type="text" value="19100"/>
タイムアウト確認時間(秒)	<input type="text" value="15"/>
応答判定モード	SYN+ACKのみ有効 ▼

- ポート監視実行間隔(分) : ポート監視実行間隔(デフォルト:1 分)
- 装置側ポート番号 : ポート監視(SYNスキャン)送信ポート(デフォルト:19100)
- タイムアウト確認時間(秒) : 設定した「タイムアウト確認時間」経過後に「正常」「異常」の判断を行います。
(デフォルト:15秒)
- 応答判定モード : SYN-SENT状態での応答に関して「SYN+ACKのみ」を『正常』とみなすか, 「SYN+ACK以外」も『正常』とみなすか設定します。
[SYN+ACKのみ有効] [SYN+ACK以外も有効]

☆詳しくは第11章 5. PoE機器ポート監視をご覧ください。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 PoE機器ポート監視が有効設定されている場合は, PoE機器Ping監視は実行されません。

4. 機器設定

[1] システム設定

(1) 基本設定

画面左側設定項目の「システム設定」をクリックします。

※特殊記号は利用不可

機器情報				
機器名称	Noname			
設置場所	Nowhere			

PoE機器設定				
No.	PoE機器名称	制御	HUB番号	ポート番号
1	PoeDev1	無効 ▼	1 ▼	0
2	PoeDev2	無効 ▼	1 ▼	0
3	PoeDev3	無効 ▼	1 ▼	0
4	PoeDev4	無効 ▼	1 ▼	0
5	PoeDev5	無効 ▼	1 ▼	0
6	PoeDev6	無効 ▼	1 ▼	0
7	PoeDev7	無効 ▼	1 ▼	0
8	PoeDev8	無効 ▼	1 ▼	0

アウトレット設定					
No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
全アウトレットREBOOT時間 (秒)				10	
電源制御時の動作確認				あり ▼	

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
ONを「-1」にすると全アウトレットON時に電源出力しません。
STARTを「-1」にすると本体起動時に電源出力しません。

アウトレット連動設定	
No.	アウトレット連動
1	- ▼
2	- ▼

フロントパネル設定	
PILOT, OUTLET LED点滅	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

〈1〉 機器設定

機器に関する設定をします。

- 機器名称 : 機器名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
 設置場所 : 設置場所を設定します。(全角31文字, 半角63文字以内)

〈2〉 PoE機器設定

「PoE機器管理設定」-「PoE HUB設定」-「PoE 機器設定」と共通の内容となり、どちらのメニューから設定を行っても設定結果は同じとなります。

☆詳細につきましては本章の3.[1]〈5〉PoE 機器設定をご参照ください。

〈3〉 アウトレット設定

アウトレット名称 : 個別アウトレットの名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)

OFF : 個別アウトレットの電源出力を停止する際のOFF遅延時間を設定します。

「-1」設定は、電源OFF操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源OFFを避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御のOFF操作
 - ・全アウトレット制御のOFF操作
- デフォルト : 0
 設定可能値 : -1 ~ 3600(秒)
 -1 : アウトレット制御のOFF操作を使用不可にします。リブート操作のみ可能です。
 0 : 即座に電源出力を停止します。
 1~3600 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

REBOOT : 個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御のリブート操作
- デフォルト : 10
 設定可能値 : 8 ~ 3600(秒)

ON : 「All Outlets」に対して「ON」ボタンを押した時に、個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間(秒数)を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・全アウトレット制御のON操作
 - ・全アウトレット制御のリブート操作(関連は「全アウトレットREBOOT時間」で)
- デフォルト : No.1-1 No.2-2
 設定可能値 : -1 ~ 3600(秒)
 -1 : 自動で電源出力を開始しません。
 0 : 即座に電源出力を開始します。

1～3600 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

START : 起動時の電源出力を開始するまでの時間を設定します。
設定方法は前項目「ON」と同様です。

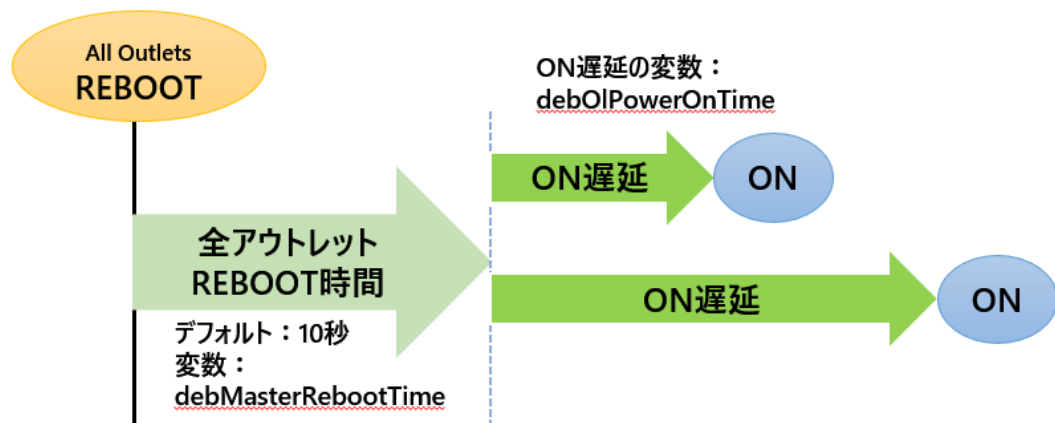
全アウトレットREBOOT時間(秒) : 全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・全アウトレット制御のリブート操作

注)個別アウトレットの「REBOOT」時間は反映されません。

デフォルト : 10

設定可能値 : 8～3600(秒)



電源制御時の動作確認 : あり なし (デフォルト あり)

「電源制御」項目下の「電源制御」「仮想制御」において、各アウトレット、仮想アウトレットに制御コマンドボタンを押下した際、デフォルトでは下図のような確認のポップアップが表示され、[OK]を押下後、制御コマンドが実行されます。



この項目を[なし]に設定すると、各アウトレット、仮想アウトレットに制御コマンドボタンを押下時、(許可を求めるポップアップが表示されることなく)すぐに制御コマンドが実行されます。

〈4〉アウトレット連動設定

選択したアウトレットの動作[ON, OFF, REBOOT]に連動します。

〈5〉フロントパネル設定

「PILOT, OUTLET LED点滅」

有効 : 各LEDの状態表示が動作します。

無効 : PILOT LED, OUTLET LEDの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

(2) 時刻設定

「システム設定」→基本設定の下の「時刻設定」をクリックします。

〈1〉時刻内容

PC内蔵時計の時刻と本装置の時刻を表示します。

(本装置には内蔵時計がないため、主電源がOFFになると機器時刻は消去されます)

〈2〉時刻設定

「同期」をクリックすると接続されたPCの時刻と同じ時刻に設定できます。

〈3〉NTP設定

NTPサーバーアドレス : NTPサーバーアドレスを入力します。

NTPサーバー同期間隔 : NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。
([入力数]×10分, となります)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 NTPサーバーの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。
(失敗した時点でエラーログが表示されます。その後、接続に成功しなければ、24時間置きにエラーログが表示されます。)

(3) 詳細設定

「システム設定」→「詳細設定」をクリックします。

レジストリ リスト

レジストリ リスト
Text リスト

機器制御

ファームウェア管理
ファームウェア更新

ファームウェア書き換え設定
有効 ▼

アウトレット連動送信 Wake on LAN

No.	アウトレット名称	MACアドレス
1	Outlet1	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>
2	Outlet2	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>

仮想アウトレット設定 [Wake on LAN]

No.	仮想アウトレット名称	MAC アドレス	遅延(秒)
1	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
3	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
4	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
5	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
6	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
7	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
8	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>

Wake on LAN

WoL送出数

WoL送出間隔(秒)

〈1〉レジストリリスト

「Textリスト」をクリックすると、WEB画面上に全変数が表示されます。

〈2〉機器制御

ファームウェア管理 : 「ファームウェア更新」をクリックし、ファームウェア更新を行います。

ファームウェア書き換え設定 (デフォルト 有効)

無効 : ファームウェア更新機能を無効にします。

ファイルのみ : ファームウェア更新をローカルからのみ有効にします。

オンラインのみ : ファームウェア更新を明京サーバーからのみ有効にします。

有効 : ファームウェア更新をローカル/明京サーバーの両方から有効にします。

ファームウェア更新をクリックすると、以下のメニューが開きます。

現在のファーム情報	
バージョン	4.00A.230112
モデル名	PoE8M2

バージョンアップ方法の選択	
オンラインアップデート	開始
ローカルファイルの選択	ファイル選択

1) 現在のファーム情報

現在のバージョンとモデル名が表示されます。

2) バージョンアップ方法の選択

オンラインアップデート : 弊社サーバーに接続してアップグレードします。

ローカルファイルの選択 : コンピュータに保存したアップグレード用のファイルを選択してアップグレードします。

★何かのアクシデントでバージョンアップに失敗した場合★

本装置は、バージョンアップに失敗しても、「データ再送」画面が表示されるか、バージョンアップ前のファームウェアで動作する仕様となっています。アップデータの途中で停電や通信途絶が発生し、バージョンアップに失敗した場合、以下の手順でデータ再送を行ってください。

この時に、**本装置のRESETボタンを押さないようにしてください。**

通信途絶/回復の頻度とタイミングによっては、RESETボタンを押すとお客様の手元での再書き込みが不可能な状態になってしまうおそれがあります。(不可能状態に陥った場合、弊社カスタマーサポートにご連絡ください。)

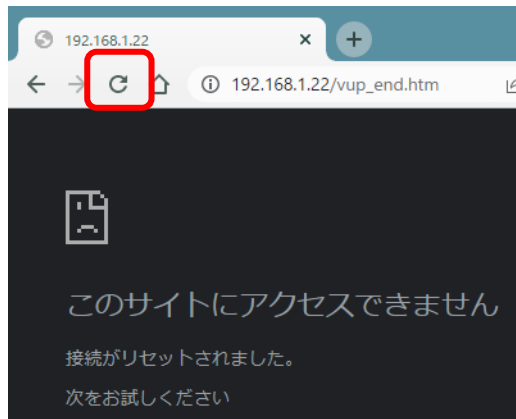
発生した状況に合わせて、以下の対応を行ってください。

- 通信途絶したが、WEBブラウザが待機中となっている場合



↑ 待機中はそのままお待ちください。

- 通信途絶の時間が長く、WEBブラウザからHTTPリクエストが途絶えた場合
例)Chromeの場合



↑「再読入」ボタンをクリック(その後, [続行]やそれに類するボタンをクリック)してください。

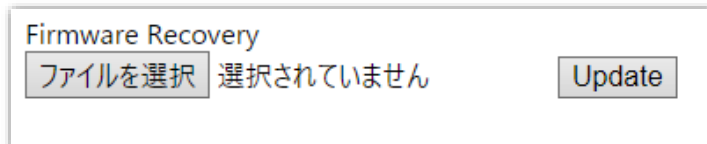
- 停電やコンセント抜けでリブーターの電源がOFFとなった場合
一度WEBブラウザを閉じてから, 再度WEBブラウザを開いてリブーターにアクセスしてください。ログアウト画面が表示された場合は, ログインボタンをクリックしてください。

- 更新中にWEBブラウザを閉じた場合
WEBブラウザを開き, リブーターにアクセスしてください。

そうしますと, WEB画面に以下のいずれかの画面が表示されます。

- ログイン画面が表示され, ログイン後はメニューと簡易情報表示画面になる
そのままご使用いただけますが, 使用前にシステム情報を開き, バージョンを確認してください。旧バージョンの場合は, 再度バージョンアップを行ってください。

- WEB画面に以下の表示が出る



この場合は「ローカルファイル選択によるアップデート」を実施する必要があります。

バージョンアップファイルは明京電機株式会社ホームページにあります。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/>の, 「アップデート(ファームウェア & ソフトウェア)」のセクションから該当機種のバージョンアップファイルをダウンロードしてください。

WEB画面の「ファイルを選択」をクリックし, 用意したバージョンアップファイルを選択します。

その後, 「Update」をクリックし, アップデートを実施します。

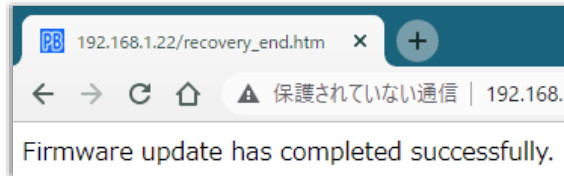
「Update」クリック後は, しばらくお待ちください。

↓ Webブラウザにて「待機中」になっている間はそのままと待ちください。



1分以上経過しても表示が変わらない場合のみ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。
(初期化は絶対にしないでください。正常稼働しなくなります。)

成功すると、



と表示されます。この後、リブーターのIPアドレスにアクセスし、「CPUリセット」を実行します。

〈3〉アウトレット連動送信 Wake on LAN

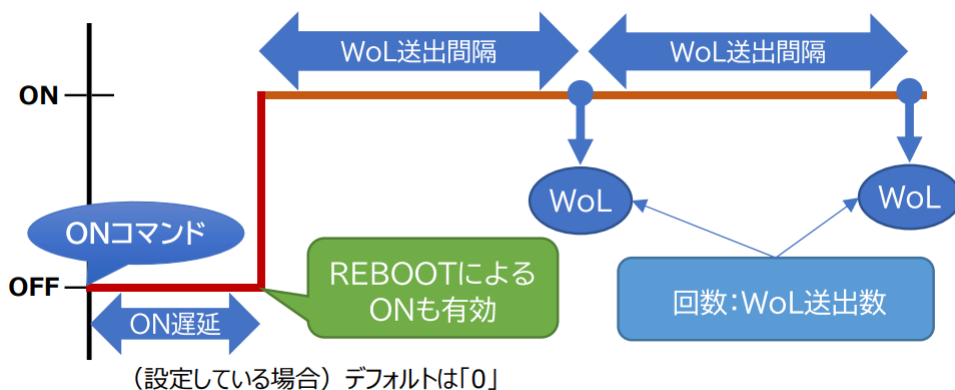
Wake on LAN機能について

Wake on LAN対応の機器を電源出力開始と同時にマジックパケットを送信し、ブートアップさせることができます。

注意 アウトレットの電源状態がOFFからONになるときにマジックパケットが送出されます。そのため、**アウトレットがONの状態時に「電源ONコマンド」を実行してもWoLは実行されません。**「電源REBOOTコマンド」であれば、WoLを実行できます。または、仮想アウトレット制御をご使用ください。

アウトレット1~2 MACアドレス : 00:00:00:00:00:00 (デフォルト)

- * パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
- * パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
- * アウトレットがONした時、マジックパケットを送出します。



〈4〉仮想アウトレット設定 [Wake on LAN]

仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは実際には存在しないアウトレットです。MACアドレスを指定してマジックパケットを送出し、Wake on LAN 対応機器の電源をONにする機能です。仮想アウトレットを使用して対象機器の電源をOFFにすることはできません。

仮想アウトレット名称 : 仮想アウトレット名称を設定します。

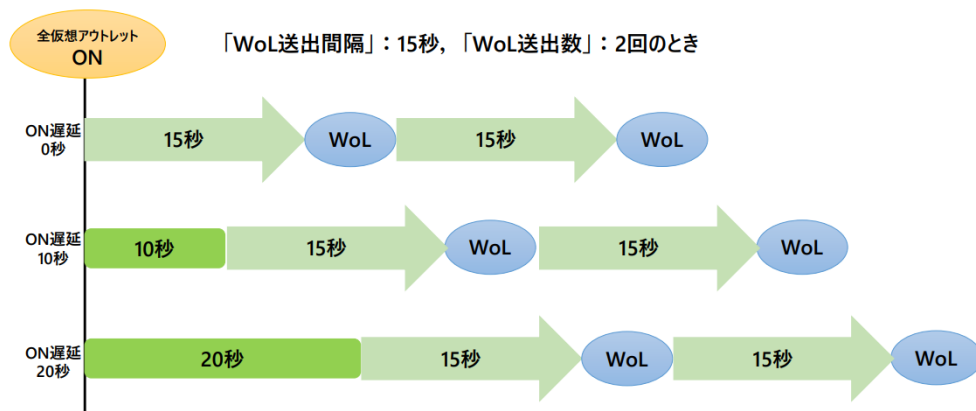
全角10文字, 半角20文字以内

MACアドレス : 00:00:00:00:00:00(デフォルト)
 遅延(秒)(※) : 0 (デフォルト) 詳細は次ページの図をご覧ください

注意 本装置の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」の命令が発報されます。(「イベントログ」記録前なので、ログには表示されません。)

●(※)「ON遅延」について●

「電源制御-仮想アウトレット制御」で「全仮想アウトレット」を「電源ON」にしたときに、このON遅延が発生します。



〈5〉Wake on LAN

「アウトレット連動送信Wake on LAN」「仮想アウトレット設定[Wake on LAN]」双方に関わる設定をします。

WoL送出数 : 2 (デフォルト)
 WoL送出間隔(秒) : 15 (デフォルト)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

(4) PoE HUB接続

「システム設定」→「詳細設定」→「PoE HUB接続」をクリックします。

「PoE機器管理設定」-「PoE HUB設定」と共通の内容となり、どちらのメニューから設定を行っても設定結果は同じとなります。

☆詳細につきましては本章の 3.[1]HUB・機器設定をご参照ください。

(5) セキュリティ

「システム設定」→「セキュリティ」をクリックします。

←
↻
システム設定 / セキュリティ

基本設定
詳細設定
セキュリティ

フィルター

共通設定

電源制御方式
排他制御方式 ▼
変更

http Ident (表示のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>

http Control (表示 & 電源制御のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>

http Admin

No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text" value="admin"/>	<input type="password" value="....."/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>

http Supervisor

No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text" value="super"/>	<input type="password" value="....."/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>

MPMPコマンド制御

No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>

(1) 共通設定

電源制御方式 : [排他制御方式]と[ガードタイム方式]を選択します。
(デフォルト [排他制御方式])

★[排他制御方式] : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者のみに限定します。
WEB画面, (有効ならば)Telnetいずれかで, 一者が電源制御を行いログインし続けている状態の時には, (他の通信手段であっても)他者のログインを許可しません。

★[ガードタイム方式] : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者に限定せず, 多重ログインを許可します。(同一通信方式にて最大2接続まで。)

「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」は[ガードタイム方式]設定時のみ実行可能です。(MPMPによる電源制御も[ガードタイム方式]の時にしか実行できません)

一者が電源制御を行った場合, 他者もログインしてWEB画面を見たりTelnetなどで通信を行うことはできますが, 別の電源制御コマンドをガードタイム経過せずに送信しても無効となります。ガードタイム経過後であれば, 他者からの電源制御コマンドも実行できます。

ガードタイムには2種類あり, 「電源ON/REBOOTコマンド後」と「電源OFFコマンド後」のガードタイムを個別に設定できます。

●方式の切替時, [変更]ボタンを押下すると次の警告文が表示されます。

警告の内容に同意の上, [OK]を押し, ふさわしいガードタイムを設定してください。

192.168.10.1 の内容

以下の文面をお読みになり, 同意される場合にのみ電源制御方式を変更できます。【PoE8M2】

排他制御方式では多重ログインは不許可, ガードタイム方式では許可となります。ガードタイム方式の場合, 他の操作者により, ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため, リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。

【 同意しますか? 】

[ガードタイム方式]に切り替えると, ガードタイムを設定できるようになります。

共通設定

電源制御方式

ガードタイム方式 ▼

変更

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)	10
OFF後, ガードタイム(秒)	10

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒) : 10 (デフォルト)

(WEB画面での入力可能値:1~9999)

●「PONn」「MPON」「PORn」「MPOR」, 現状OFFになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

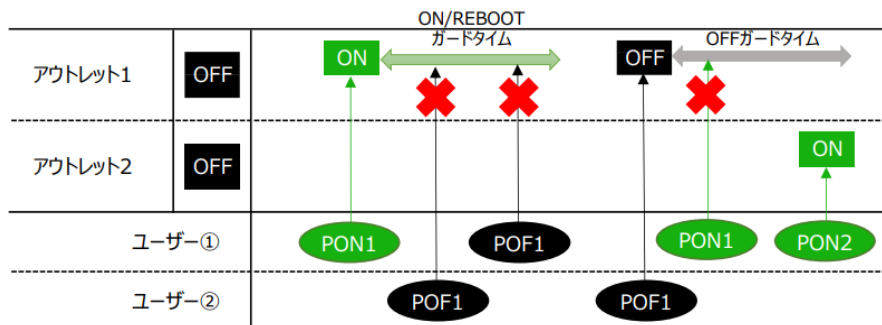
OFF後, ガードタイム(秒) : 10 (デフォルト)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「POFn」「MPOF」, 現状ONになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

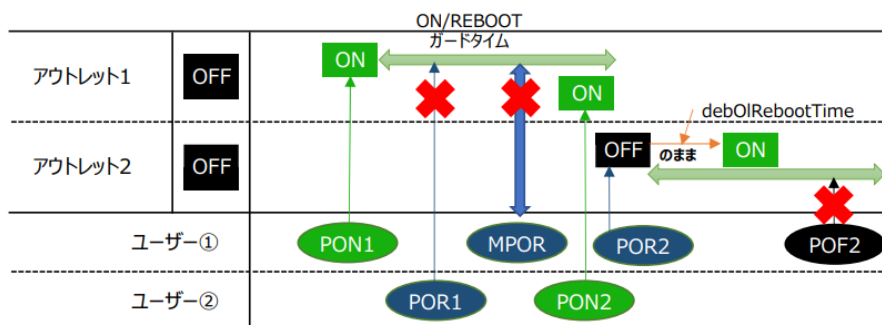
●ガードタイム仕様●

- ・「ON/REBOOT後, ガードタイム」「OFF後, ガードタイム」ともに, 設定値は各アウトレット共通となります。(アウトレット個別に, 異なる長さのガードタイムを設定することはできません。)
- ・「ON/REBOOT後, ガードタイム」の間は, OFFコマンド, REBOOTコマンドがブロックされます。
- ・「OFF後, ガードタイム」の間は, ONコマンド, REBOOTコマンドがブロックされます。
- ・1つのアウトレットが
 - 「ON/REBOOT後, ガードタイム」中に, MPOF, MPORコマンドが
 - または「OFF後, ガードタイム」中に, MPON, MPORコマンドが
 実行されても, そのコマンドは無効とされ, ガードタイムがかかっているアウトレットの電源状態は変化しません。
- ・各種監視(Ping, メールサーバー, ハートビート), スケジュールによるアウトレット操作はガードタイムの対象外となります。
- ・ガードタイム発動時, 接続している全てのユーザーからの電源制御が制限を受けます。

■「ON/REBOOT後, ガードタイム」「OFF後, ガードタイム」と電源ON/OFFコマンド



■ガードタイム中の全アウトレットへのコマンド, リブートとガードタイム



〈2〉各種権限

【すべて「HTTP接続用」です。】

http Ident : システム情報の参照のみ (※ 最大10件登録)

http Control : システム情報参照と電源の制御のみ (※ 最大10件登録)

http Admin : 全ての権限 (※ 最大5件登録)
 ユーザーID(デフォルト : admin) パスワード(デフォルト: magic)

http Supervisor : システム情報の参照とCPUリセット機能のみ (※最大 5件登録)
 ユーザーID(デフォルト : super) パスワード(デフォルト: illusion)

ユーザーID : 最大半角8文字 (重複不可) (@は不可)
 パスワード : 最大半角16文字 (重複可)

	Ident	Control	Admin	Supervisor
簡易状態表示	○	○	○	○
監視状態表示	○	○	○	○
イベントログ	×	×	○	○
電源制御	×	○	○	×
各種設定	×	×	○	×
CPUリセット	×	×	○	○

注意 セキュリティ対策として, admin権限のユーザーID, パスワードを変更するよう推奨します。デフォルトのまま使用するとセキュリティホールになる危険があります。

☆Telnet接続で使用するID, パスワードに関しては,
 第6章1.Telnet接続による制御をご覧ください。

〈3〉MPMPコマンド制御

明京オリジナルプロトコル MPMP(Meikyo Products Management Protcol)を使用して,
 電源制御, 仮想アウトレット制御, CPUリセットを実行させることができます。

MPMPによる制御に使用するID, PASSを3セット, 設定することができます。

ユーザーID : 半角英数記号5文字以内

パスワード : 半角英数記号7文字以内

注意 ☆MPMPコマンド制御につきましては, 第6章4.MPMPでの制御をご確認ください。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

(6) フィルター

「システム設定」→「セキュリティ」→「フィルター」をクリックします。

IP フィルター設定	
IP フィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アドレス1	<input type="text" value="192.168.10.0"/>
アドレス2	<input type="text"/>
アドレス3	<input type="text"/>
アドレス4	<input type="text"/>
アドレス5	<input type="text"/>
アドレス6	<input type="text"/>
アドレス7	<input type="text"/>
アドレス8	<input type="text"/>
アドレス9	<input type="text"/>
アドレス10	<input type="text"/>

Ident / Control ユーザー 表示設定	
詳細状態表示	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
仮想アウトレット制御	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 ON ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 OFF ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 REBOOT ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット1 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット2 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
全アウトレット制御ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示

〈1〉IPフィルター設定

IPフィルター機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 アドレス : 192.168.10.0(デフォルト)
 (最大10アドレス)

■IPフィルターについて

細かに設定する場合, Telnetで変数を用いて設定する必要があります。

関係する変数名

IPフィルターアドレス : ipFilterAddr (WEB画面でも設定可能)
 IPフィルターマスク : ipFilterMask (WEB画面には項目がない)

IPフィルター機能はビット単位のマスク機能です。(IPv4のサブネットマスク)
 基本的にマスクを「255」にすると「必ずその値でなければならない」となり,
 「0」にすると「その部分はあらゆる数値をとれる」となります。
 ですので, ipFilterMask=255.255.255.0
 ipFilterAddr=192.168.10.0 とすると,
 「192.168.10.1~192.168.10.254」から接続可能になります。

(1)指定のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例:「192.168.1.119」「10.149.15.12」「10.46.48.111」の3つのアドレスからのアクセスのみ受け付けたい。

ipFilterMask=255.255.255.255 にすることで, そのアドレスのみ可能にできます。

Telnetで, 次の変数を書き込みます。

(変数なので, 初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.255,255.255.255.255

.ipFilterAddr=192.168.1.119,10.149.15.12,10.46.48.111

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

(2)ある範囲のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例 「192.168.10.1~192.168.10.150」まで接続可能にしたい場合

まず「192.168.10.」の部分は「必ずその値であるべき」なのでマスクは「255.255.255.」で始めます。最後の一件に関して2進法を使って設定していきます。

「150」を2進法で表すと「10010110」となります。つまり, $128+16+4+2$ です。【2進法の「1」に注目しています。】

このとき「128」, 「 $128+16=144$ 」, 「 $128+16+4=148$ 」, 「 $128+16+4+2=150$ 」の4つを区切りとして考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
1~127	0xxxxxxx	1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	→	128	0
128~143	1000xxxx	1 1 1 1 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0	→	240	128
144~147	100100xx	1 1 1 1 1 1 0 0	1 0 0 1 0 0 0 0	→	252	144
148~149	1001010x	1 1 1 1 1 1 1 0	1 0 0 1 0 1 0 0	→	254	148
150	10010110	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 0	→	255	150

となるので, Telnetで次の変数を書き込みます。

(変数なので, 初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.128,255.255.255.240,255.255.255.252,255.255.255.254,255.255.255.255

.ipFilterAddr=192.168.10.0,192.168.10.128,192.168.10.144,192.168.10.148,192.168.10.150

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

例2 「192.168.10.151～192.168.10.254」まで接続可能にしたい場合

これも最後の一枠だけ考えます。

「151」を2進法で表すと「10010111」となります。この数字から255を目指すので、今度は2進法の「0」に注目すると、あと「8+32+64」あれば255になります。(IPアドレスで255は使用しません。ただフィルターのマスクを考えるにあたっては便宜上255をイメージします)
このとき「151」, 「151+8=159」, 「151+8+32=191」, 「151+8+32+64=255」の4つで考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
151	10010111	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 1	→	255	151
152～159	10011xxx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 1 0 0 0	→	248	152
160～191	101xxxxx	1 1 1 0 0 0 0 0	1 0 1 0 0 0 0 0	→	224	160
192～255	11xxxxxx	1 1 0 0 0 0 0 0	1 1 0 0 0 0 0 0	→	192	192

となるので、Telnetで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.248,255.255.255.224,255.255.255.192

.ipFilterAddr=192.168.10.151,192.168.10.152,192.168.10.160,192.168.10.192

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

これで「192.168.10.151～192.168.10.254」だけが接続できるようになりました。

〈2〉Ident/Controlユーザー表示設定

監視状態表示	:	隠す 表示
仮想アウトレット制御	:	隠す 表示
電源ONボタン	:	隠す 表示
電源OFFボタン	:	隠す 表示
電源リブートボタン	:	隠す 表示
アウトレット1-2関連	:	隠す 表示
全アウトレット制御ボタン	:	隠す 表示

デフォルトではすべて表示となっています。

「隠す」にチェックするとIdent/Control権限でログインした時、各表示を隠すことが出来ます。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

[2] ネットワーク設定

(1) 基本設定

「ネットワーク設定」をクリックします。

半角英数のみ

ネットワーク基本設定	
IP アドレス	<input type="text" value="192.168.10.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNS サーバーアドレス	<input type="text"/>
DHCP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	<input type="text" value="80"/>
HTTP 認証方式	<input type="text" value="Digest"/>
Realm 名	<input type="text" value="PoE8M2"/>
Nonce 時間 (秒)	<input type="text" value="180"/>
Telnet	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Telnet ポート	<input type="text" value="23"/>
リモート Telnet IP	<input type="text"/>
リモート Telnet ポート	<input type="text" value="23"/>
通信速度	<input type="text" value="自動接続"/>
RPCサーチ	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
自動ログアウト	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

HTML 表示設定	
ログインタイムアウト (秒)	<input type="text" value="600"/>
自動ページ更新設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
自動ページ更新時間 (秒)	<input type="text" value="30"/>

ダイレクトWEBコマンド設定	
ダイレクトWEBコマンド機能 [?]	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

★「ガードタイム方式」かつ「電源制御時の動作確認：なし」設定時のみ電源制御が可能です。[システム設定]-[セキュリティ]及び[システム設定]-[基本設定]-[アウトレット設定]から設定してください。

〈1〉 ネットワーク基本設定

IP アドレス	: 192.168.10.1
サブネットマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 0.0.0.0
DNS サーバーアドレス	: 0.0.0.0
DHCP	: 有効 無効 (デフォルト無効)
HTTP	: 有効 有効 (デフォルト有効)
HTTP ポート	: 80
HTTP 認証方式	: None Basic Digest (デフォルトDigest)
Realm 名	: PoE8M2 (半角20文字以内)
Nonce 時間 (秒)	: 180 設定可能値 30 ~ 30000
Telnet	: 有効 無効 (デフォルト無効)
Telnet ポート	: 23
リモート Telnet IP	: 0.0.0.0
リモート Telnet ポート	: 23
通信速度	: 100Mbps Full Duplex 100Mbps Half Duplex 10Mbps Full Duplex 10Mbps Half Duplex 自動接続 (デフォルト 自動接続)
RPCサーチ	: 有効 無効 (デフォルト 有効)
自動ログアウト	: 有効 無効 (デフォルト 有効)

※特に記載の無い数値等はデフォルト値となります。

注意

HTTP認証を「None」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。
「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面にIDとパスワードを入力する方式になります。

外部のネットワークから接続するため、IPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にしてください。

注意

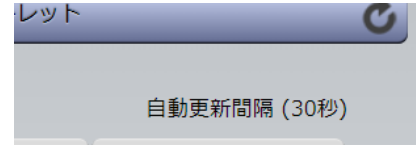
DHCP利用中、IPアドレスの取り直しが行われると本装置は自動的にCPUリセットを行います。

〈2〉HTML表示設定

ログインタイムアウト（秒）：自動ログアウトまでの時間を設定します。

デフォルト 600 設定可能値 30 ~ 30000

★画面右上に“自動更新間隔(*秒)”の表示がある画面を開いている場合は自動ログアウトされません。



自動ページ更新設定：簡易状態表示画面, 詳細状態表示画面について、自動更新の有無を設定します。

有効：自動更新を行う

無効：自動更新を行わない(デフォルト 無効)

★「無効」にしても、電源制御画面・PoE出力制御面だけは必ず自動更新されます。

自動ページ更新時間（秒）：WEBと電源制御画面の自動更新間隔時間を設定します。

デフォルト 30

〈3〉ダイレクトWEBコマンド

ダイレクトWEBコマンド：有効 無効 (デフォルト 無効)

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 ☆ダイレクトWEB コマンドについては、第6章3.

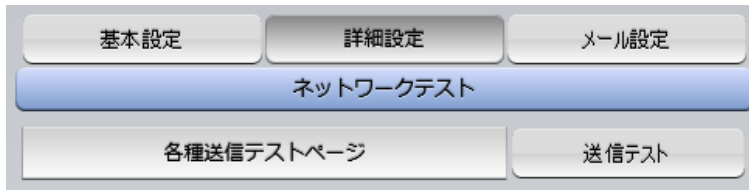
WEB コマンドからの制御をご確認ください。

ダイレクトWEBコマンドで「電源制御」するには

●ガードタイム方式 ●電源制御時の動作確認:なし に設定する必要があります。

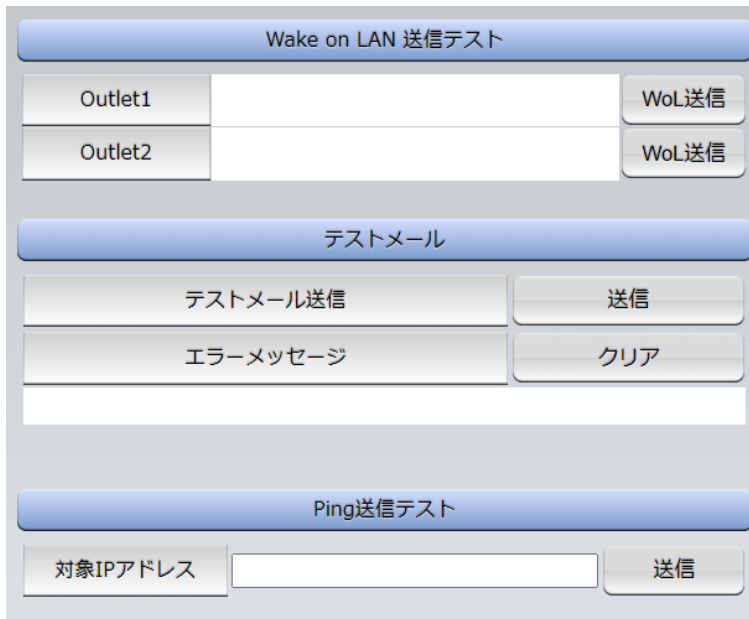
(2) 詳細設定

「ネットワーク設定」→「詳細設定」をクリックします。



〈1〉ネットワークテスト

「送信テスト」をクリックすると、送信テスト画面に移動します。



1) Wake on LAN送信テスト

設定されているMACアドレスにマジックパケットを送信できます。

2) テストメール

「通知先」に登録しているメールアドレスにテストメールを送信します。

何らかの不具合が生じた場合「エラーメッセージ」が表示されます。

「クリア」を押すとエラーメッセージがクリアされます。

3) Ping送信テスト

「対象IPアドレス」に入力したIPアドレスに対してICMPを送信し、その結果を表示します。

①[送信]をクリックします。

②測定中は「測定中」と表示されます。

③測定結果が表示されます。

```

正常      :Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyymms
            xxx.xxx.xxx.xxx      : 測定先アドレス
            yyy                  : 応答時間(ミリ秒)
異常      :Request timed out.      応答が異常時
異常      :Domain name not found. ドメイン名が存在しない
  
```


〈2〉基本SNMP設定

「ネットワーク設定」→「詳細設定」をクリックします。

基本 SNMP 設定	
SET GET 設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
GET Community Name	<input type="text" value="public"/>
SET Community Name	<input type="text" value="public"/>
TRAP Community Name	<input type="text" value="public"/>
Manager Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Authentication Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Trap IP アドレス1	<input type="text"/>
Trap IP アドレス2	<input type="text"/>
Trap IP アドレス3	<input type="text"/>
Trap IP アドレス4	<input type="text"/>

SET GET設定 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 GET Community Name : public
 (全角10文字 半角20文字以内)
 SET Community Name : public
 (全角10文字 半角20文字以内)
 TRAP Community Name : public
 (全角10文字 半角20文字以内)
 Manager Trap : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 AuthenticationTrap : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 Trap IPアドレス1～8 : 0.0.0.0
 (最大8 IPアドレス)

※特に記載の無い数値等はデフォルト値となります。

注意 「SET GET設定」を変更するには, [適用]クリック後, 「CPUリセット」を行う必要があります。

〈3〉SNMPフィルター設定

SNMP フィルター設定		
SNMP フィルター機能		○ 有効 ● 無効
フィルター IP アドレス		フィルターマスク
1	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
3	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
4	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>

SNMPフィルター機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 フィルターIPアドレス : 0.0.0.0
 フィルターマスク : 255.255.255.255
 (最大10アドレス)

〈4〉状態通知機能

状態通知機能		
状態通知機能		MPMP ▼
1	アドレス	<input type="text"/>
	ポート	<input type="text" value="5000"/>
2	アドレス	<input type="text"/>
	ポート	<input type="text" value="5000"/>
	アドレス	<input type="text"/>

状態通知機能 : 無効 MPMP RPC EYE (デフォルト 無効)
 アドレス1-3 :
 ポート1-3 : 5000
 送信間隔(秒) : 300

※特に記載の無い数値等はデフォルト値となります。

☆状態通知機能については、第6章4.MPMPでの制御、または第10章ネットワーク稼働監視をご参照ください

- MPMP(Meikyo Products Management Protocol)とは、従来の明京電機状態通知プロトコルを拡張したものです。規模の大きい状態監視システムを構築する時に役立ちます。また、通知だけでなく、制御コマンドも実行できます。対応ソフトウェアについては弊社営業部にご相談ください。

〈5〉【「ガードタイム方式」選択時のみ表示】一斉電源制御受付(子機機能)設定

一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00

子機グループ : Disabled[デフォルト]
Group1~8

ホスト側MACアドレス: 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを指定します。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意	設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
----	---

(3) メール設定

「ネットワーク設定」→「メール設定」をクリックします。

〈1〉メールサーバー設定

ユーザー名, パスワード, メールアドレス, 受信サーバー, 受信ポート, 送信サーバー, 送信ポートはプロバイダからの資料に基づき設定します。

半角英数のみ

メールサーバー設定	
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
受信サーバー	<input type="text"/>
受信ポート	<input type="text" value="110"/>
送信サーバー	<input type="text"/>
送信ポート	<input type="text" value="25"/>
メール確認間隔(分)	<input type="text" value="3"/>
再接続時間(秒)	<input type="text" value="10"/>
形式	<input type="radio"/> IMAP <input checked="" type="radio"/> POP3
SMTP Auth	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
	<input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5
	<input checked="" type="checkbox"/> LOGIN
	<input checked="" type="checkbox"/> PLAIN
IMAP Auth	<input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5 <input checked="" type="checkbox"/> LOGIN
APOP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

注意 **本製品はSSL/TLS通信に対応しておりません。**そのため、この「メールサーバー設定」(**リブーター側に設定する**メールアドレス)にGmailなどのSSL/TLSを用いたメールを設定することはできません。

ただし、「**通知先アドレス**」には、**SSL/TLSを用いたメールを設定することができます。**

メール確認間隔(分)	:	3
再接続間隔(秒)	:	10
(変数mailRetryCountで設定した回数送信します。デフォルト:3回)		
形式	:	IMAP POP3 (デフォルトPOP3)
SMTP Auth	:	有効 無効 (デフォルト 無効) 認証方法を選択 CRAM-MD5 LOGIN PLAIN
IMAP Auth	:	認証方法を選択 CRAM-MD5 LOGIN
APOP	:	有効 無効 (デフォルト 無効)

〈2〉メール制御設定

メール制御設定	
メール制御コマンド [?]	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
<p>★「ガードタイム方式」時のみメールでの電源制御可能です。[システム設定]-[セキュリティ]から設定してください。</p> <p>★「通知先アドレス」に登録されているアドレスからのみメール制御可能です。</p>	
メール制御ユーザー名	<input type="text"/>
メール制御パスワード	<input type="password"/>
送信メール 件名	機器名称 ▼
送信メール 本文1行目	日時又は積算時間
送信メール 本文2行目	設置場所 ▼
送信メール 本文3行目	IPアドレス ▼
送信メール 本文4行目	MACアドレス ▼
送信メール 本文5行目	ユーザー任意1 ▼
送信メール 本文6行目	イベント内容 ▼
送信メール 本文7行目	表示無し ▼
送信メール 本文8行目	表示無し ▼
ユーザー任意1	<input type="text" value="rln"/>
ユーザー任意2	<input type="text"/>
ユーザー任意3	<input type="text"/>

メール制御コマンド : 有効 無効 (デフォルト 無効)

☆「メールサーバー監視」(第4章4[3](2)メールサーバー)を行うには「有効」を選択してください。

★メール制御は(3)の「通知先設定」に設定したメールアドレスからのみ制御できます。

★メール制御で「電源制御」を行う場合、「ガードタイム方式」を選択する必要があります。

メール制御ユーザー名 : 半角英数字63文字以内

メール制御パスワード : 半角英数字63文字以内

☆使用可能な文字は「第4章」2.[1]入力可能な半角文字について参照。

送信メール 件名 : [表示無し][機器名称][設置場所][IPアドレス]
[MACアドレス][イベント内容][ユーザー任意1~3]…
…(*)より選択します。

送信メール 本文1行目 日時又は積算時間

送信メール 本文2行目

送信メール 本文3行目

送信メール 本文4行目

送信メール 本文5行目

送信メール 本文6行目

送信メール 本文7行目

送信メール 本文8行目

ユーザー任意1~3

上記(*)9点から選択

: 任意のメール通知文を設定
(全角21文字, 半角43文字以内)

〈3〉通知先設定

通知先設定		
No.	種類	通知先アドレス
アドレス1	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス2	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス3	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス4	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス5	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス6	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス7	TO ▼	<input type="text"/>
アドレス8	TO ▼	<input type="text"/>

通知するメールアドレスを設定します。最大8件設定できます。

種類 : TO CC BCC (デフォルト TO)

通知先アドレス : 通知するメールアドレスを設定します。

★メール制御は,ここに登録されているメールアドレスからしか実行できません。

●「通知先アドレス」には,SSL/TLSを用いたメールを設定することができます

〈4〉送信条件フラグ

送信条件フラグ								
No.	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
アドレス1	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ログ送信回数	<input type="text" value="0"/>							

F1 Ping,Mail,ポート F2 F3 スケジュール F4
 F5 F6 F7 ハートビート F8 ログ

4種類([Ping,Mail,ポート][スケジュール][ハートビート][ログ])から選択できます。
 チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。たとえば, [Ping]では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

ログ送信回数 : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。
 (MAX:20)(デフォルト 0の時は送信しません。)

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 設定によっては,「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

リブーターの仕様上,「ユーザー名」「パスワード」が空欄の場合,リブーターからのメール送信は実行されません。そのため,メール制御は実行しないがメール通知は実行したい場合は,「ユーザー名」「パスワード」にダミーデータを設定する必要があります。

リブーター側に設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは,メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後,削除されます。ですので,リブーターに設定するメールアドレスは専用のものを1つご用意ください。

〈5〉メールサーバーエラーメッセージ

メールサーバーエラーメッセージ	
エラーメッセージ	クリア <input type="checkbox"/>

メールに失敗したエラー情報を表示します。

クリアにチェックして[適用]をクリックすると消去できます。

<メールサーバーのチェックは「ネットワーク設定」→「詳細設定」→「ネットワークテスト」の「送信テスト」からできます。>

(4) サーバー連携

こちらのメニューは 電源管理クラウド365連携 をご契約された方向けのメニューとなります。
「ネットワーク設定」→「サーバー連携」をクリックします。

〈1〉排他制御/ガードタイム方式切替

こちらの項目は本章の4. [1](5)〈1〉共通設定 と共通の内容となります。

電源制御方式 : [排他制御方式]と[ガードタイム方式]を選択します。
(デフォルト [排他制御方式])

★[排他制御方式] : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者のみに限定します。
WEB画面, (有効ならば)Telnetいずれかで, 一者が電源制御を行いログインし続けている状態の時には, (他の通信手段であっても)他者のログインを許可しません。

★[ガードタイム方式] : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者に限定せず, 多重ログインを許可します。(同一通信方式にて最大2接続まで。)

サーバー連携機能を有効にするには[ガードタイム方式]を選択する必要があります。(「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」, MPMPIによる電源制御も[ガードタイム方式]の時のみ実行できます)

一者が電源制御を行った場合, 他者もログインしてWEB画面を見たりTelnetなどで通信は行えたりしますが, 別の電源制御コマンドをガードタイム経過せずに送信しても無効となります。ガードタイム経過後であれば, 他者からの電源制御コマンドも実行できます。

ガードタイムには2種類あり, 「電源ON/REBOOTコマンド後」と「電源OFFコマンド後」のガードタイムを個別に設定できます。

- 方式の切替時, [変更]ボタンを押下すると次の警告文が表示されます。
警告の内容に同意の上, [OK]を押し, ふさわしいガードタイムを設定してください。

192.168.10.1 の内容

以下の文面をお読みになり, 同意される場合にのみ電源制御方式を変更できます。【PoE8M2】

排他制御方式では多重ログインは不許可, ガードタイム方式では許可となります。ガードタイム方式の場合, 他の操作者により, ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため, リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。

【 同意しますか? 】

[ガードタイム方式]に切り替えると, ガードタイムを設定できるようになります。

共通設定

電源制御方式	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">ガードタイム方式 ▼</div>	変更
ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)	<input style="width: 80%;" type="text" value="10"/>	
OFF後, ガードタイム(秒)	<input style="width: 80%;" type="text" value="10"/>	

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒) : 10 (デフォルト)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「PONn」「MPON」「PORn」「MPOR」, 現状OFFになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

OFF後, ガードタイム(秒) : 10 (デフォルト)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「POFn」「MPOF」, 現状ONになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

〈2〉NTP設定

こちらの項目は本章の4. [1]〈2〉〈3〉NTP設定共通設定 と共通の内容となります。

NTPサーバーアドレス : NTPサーバーアドレスを入力します。
NTPサーバー同期間隔 : NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。
([入力数]×10分, となります)

〈3〉電源管理クラウド365連携

サーバー連携 : 有効 無効 (デフォルト 無効)

★実際に電源管理クラウド365を使用される時には, 電源管理クラウド365の取扱説明書の手順に沿って設定してください。

[3] 監視設定

(1) Ping監視

「監視設定」をクリックします。

Ping 監視設定					
	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	1 192.168.1.232	<input type="checkbox"/>	10	10	1 ▼
	2	<input type="checkbox"/>			
	3	<input type="checkbox"/>	動作		回数
	4	<input type="checkbox"/>	Reboot ▼	1	1
2	1	<input type="checkbox"/>	10	10	1 ▼
	2	<input type="checkbox"/>			
	3	<input type="checkbox"/>	動作		回数
	4	<input type="checkbox"/>	無動作 ▼	1	1
Ping 送信間隔 (分)			1		
死活監視リポートによる警告 (回)			12		
回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)					
1		0	2		0

〈1〉 Ping監視設定

監視先アドレス : 監視するIPアドレスまたはドメイン名を設定します。

各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。

例 IPアドレス : 192.168.0.1

例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp

DG : チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
(デフォルト チェック無し)

送信 : 判断するための送信する回数を設定します。(デフォルト 10)
設定可能値 : 1~100 (回)

無答 : 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。(デフォルト 10)
設定可能値 : 1~100 (回)

対象 : 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。(デフォルト 1)
プルダウンメニューで選択 1~4

動作 : 動作を選択します。(デフォルト 無動作)

無動作 : Ping監視を行いません。

Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。

Reboot : ログに記録し, 電源出力をOFF→ONします。

回数 : 再Reboot回数を設定します。

間隔 : 再Reboot間隔(分)を設定します。

☆「再Reboot」について詳しくは次ページの【Ping監視の仕組みと動作】Ping監視の仕組みと動作をご覧ください。

Ping送信間隔(分) : ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。

設定可能値 : 1~60

死活監視リポートによる警告(回) : 全アウトレットの死活監視リポート回数が設定値を超えると, PILOT LEDを赤色点滅させます。(デフォルト 12)

〈2〉回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)

デフォルト : 0(無制限)

★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」で「1回目」とカウントされるのは, Ping監視で異常検知されて最初に行われるRebootとなります。

(「回数」(再Reboot回数)を複数回設定している場合は, この複数回のRebootで1回となります)

そのため, 「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」を「1」と設定すると, 異常検知時に最初に行われたReboot(再Reboot設定時は1セット)だけを実行し, その後は繰り返されないことになります。

詳細は, 次ページの【Ping監視の仕組みと動作】をご覧ください。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

Ping監視が正常な場合は監視番号の背景色が「緑色」に変わり, 異常が発生している場合は「赤色」, 回復中は「黄色」に変わります。

注意

指定したアウトレットが電源OFF状態の時はPing監視を行いません。(ICMPエコー要求パケットも送信しません)

応答のない状態が続いた場合は, 約1時間ごとに設定された動作を実行します。再度, 条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。

(詳しくは次ページのPing監視の仕組みと動作をご覧ください。)

ハートビートが有効設定されている場合は, Ping監視は実行されません。

【Ping監視の仕組みと動作】

監視先アドレスに対して[Ping送信間隔]で設定した間隔でICMPエコー要求パケットを1個送出し、応答を待ちます。

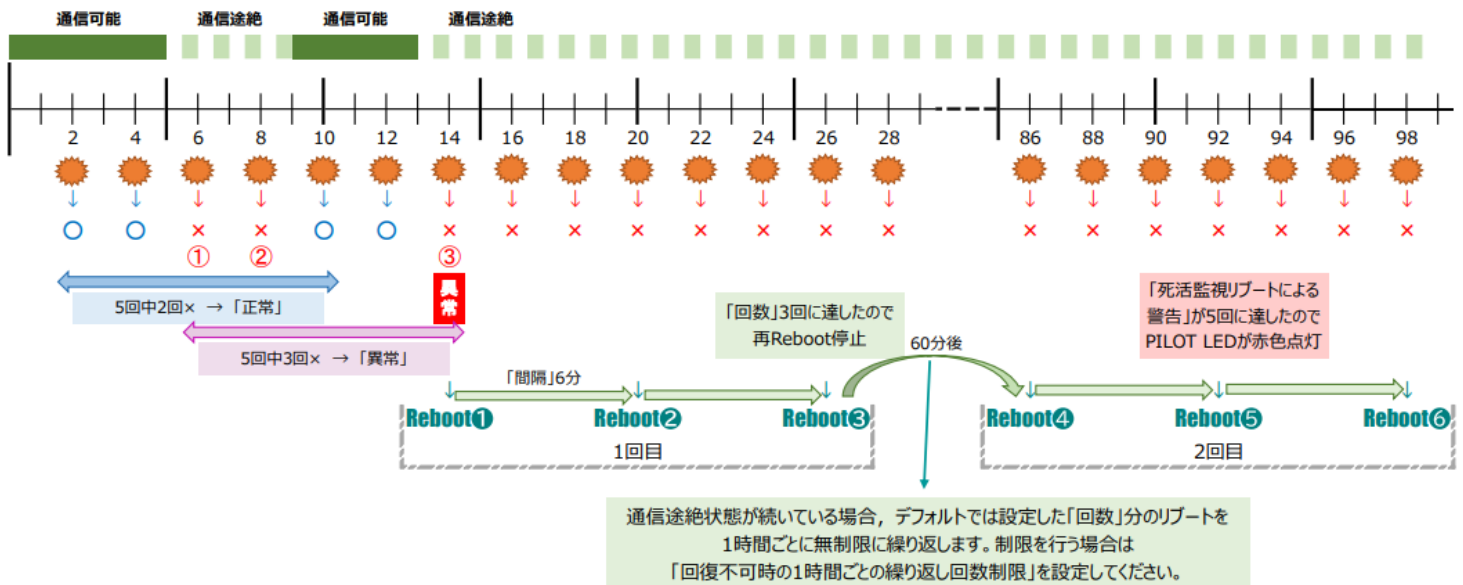
設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を「異常」と判断します。

「異常」と判断された監視先が[対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

[動作]が[Reboot]の場合、「再Reboot間隔(分)」ごとに「再Reboot回数」だけリブートを繰り返します。

(例)「Ping送信間隔」を「2(分)」,
「死活監視リポートによる警告」を「5(回)」,
「送信」を「5(回)」,
「無答」を「3(回)」,
「動作」を「Reboot」,
「回数」を「3(回)」,
「間隔」を「6(分)」に設定した場合。

	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	192.168.1.xxx	<input type="checkbox"/>	5	3	1
2		<input type="checkbox"/>			
3		<input type="checkbox"/>			
4		<input type="checkbox"/>			
			動作	回数	間隔
			Reboot	3	6
PING 送信間隔 (分)					2
死活監視リポートによる警告 (回)					5



★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」が「1」のとき、Reboot①～③だけを行い、その後は繰り返しません。

★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」が「2」のとき、Reboot①～③、④～⑥を行い、その後は繰り返しません。

(2) メールサーバー

「監視設定」→「メールサーバー」をクリックします。

〈1〉メールサーバー監視設定

- 接続エラー回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。
- 動作 : 動作を選択します。(デフォルト 無動作)
- 無動作 : 監視を行いません。
- Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
- Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。

動作はPing監視と共通の設定になります。

〈2〉メールサーバー状態表示

- エラー回数 : メール受信サーバー接続障害回数を表示します。
- メールチェック間隔(分) : メールサーバーのチェック間隔が表示されます。
(デフォルト 3分)
- (「ネットワーク設定-メール設定」の「メール確認間隔(分)」の設定が反映されます)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 メールサーバー監視を行う場合は「メールサーバー設定」で受信サーバーを正しく設定する必要があります。また「メール制御設定」でメール制御コマンドを有効にしておく必要があります。(「通知先設定」のメールアドレスは空白でも構いません。)

メールサーバー監視とPing監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

ハートビート監視を有効にしたアウトレットでは、Ping監視・メールサーバー監視は実行されません。

(3) ハートビート

「監視設定」→「ハートビート」をクリックします。

ハートビート設定	
ハートビート	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
監視IPアドレス制限 (空欄→全て受信)	<input type="text"/>
受信ポート	<input type="text" value="9100"/>
送信ポート	<input type="text" value="9100"/>
リブート後, 無監視時間(秒)	<input type="text" value="30"/>
ハートビート監視間隔(秒)	<input type="text" value="8"/>
TimeOut判定数	<input type="text" value="3"/>
動作最大回数	<input type="text" value="3"/>
電源供給アウトレット	<input type="text" value="なし"/>

監視条件設定	
ハートビート監視設定	
1	<div>動作</div> <div>無動作 ▼</div>
ハートビート監視設定	
2	<div>動作</div> <div>無動作 ▼</div>

ハートビートパケット状態	
ハートビート無効	

〈1〉ハートビート設定

- ハートビート : 有効 無効 (デフォルト 無効)
- 監視IPアドレス制限 (空欄→全て受信) : ハートビートパケットが送られてくるIPアドレスを制限します。
★空欄のまま→すべてパケットを受け付ける
- 受信ポート : リブーター側のパケット待ち受けポート(デフォルト 9100)
(推奨値:9100~9199)
- 送信ポート : PC側(HB側)の送信ポート(デフォルト 9100)
(推奨値:9100~9199)
- リブート後, 無監視時間(秒) : TimeOut判定によって「リブート」動作実行になった時点からハートビートパケットを待ち受ける間隔 (デフォルト 30)
(設定可能値:1~999)

ハートビート監視間隔(秒) : ハートビートパケットを受ける間隔 (デフォルト 8)
(設定可能値:1~99)

TimeOut判定数 : 「TimeOut」と判定する「未受信カウント(※)」数。
(デフォルト 3) (設定可能値 1~99(回))

(※)未受信カウント:「ハートビート監視間隔」で設定した秒数内にハートビートパケットが受信できなかった時、「未受信カウント」が1つ上がります。ハートビートパケットを受信すると、「未受信カウント」は「0」に戻ります。

動作最大回数 : 動作が「リブート」の場合の実行回数限度
(デフォルト 3 設定可能値 1~99(回))

電源供給アウトレット (※) : ハートビートパケットを送出してくるPCなどが接続されているアウトレットを指定します。(デフォルト なし)
なし Outlet1 Outlet2

※スケジュールでのOFF等, 意図的な電源OFF時のハートビート監視一時停止を行います。詳細は以下をご覧ください。

★意図的な電源OFF時のハートビート監視一時停止★

PCなどハートビートパケット送出元の電源が接続されているアウトレットに, 使用者が意図して「電源OFF」コマンドを投げ(またはスケジュール機能で「電源OFF」し), そのまま「電源OFF」を維持してほしい場合, 「ハートビートパケットが送られてこなくても, それは正常である」と認識させる必要があります。

【もし設定しないと】意図的な「電源OFF」を行った後, そのアウトレットに接続されたPCからハートビートパケットが送られてこないためTimeOut判定になり, そのアウトレットがリブートされ, 意図的にOFFを行ったPCの電源がONになります。

【設定方法】

ハートビート送出元のPCなどの電源がとられているアウトレットに関して,

- 1)「電源供給アウトレット」で, そのアウトレット番号を指定する。
- 2)そのアウトレットのハートビート監視「動作」を[ON][Reboot]に設定する

この状態で, 該当アウトレットが(ハートビート監視での動作以外で)「電源OFF」となった後は, 監視状態は「監視一時停止(Pause)」となり, ハートビート監視を一時停止します。(「未受信カウント」もそこで停止になります)

そして, そのアウトレットが「電源ON」になった時にハートビート監視を再開します。

注意 ハートビートを利用するには「ハートビート」を「有効」にし[適用]をクリックします。その後, 「CPUリセット」を行う必要があります。

〈2〉監視条件設定

アウトレットごとの動作を選択します。

	パケットを受信	タイムアウト発生中
無動作	無変化	無変化
On	無変化	Onに変化
On追従	On→Offへ	Off→Onへ
Off	無変化	Offに変化
Off追従	Off→Onへ	On→Offへ
Reboot	無変化	Reboot
Logのみ	無変化(ログを残す)	無変化(ログを残す)

〈3〉ハートビートパケット状態

- 状態 : 待機中／タイムアウト発生中／パケットを受信／動作停止中
- 送信IPアドレス : ハートビートパケットが送られてきたIPアドレスを表示します。
- タイムアウト回数 : 未受信カウントを表示します。

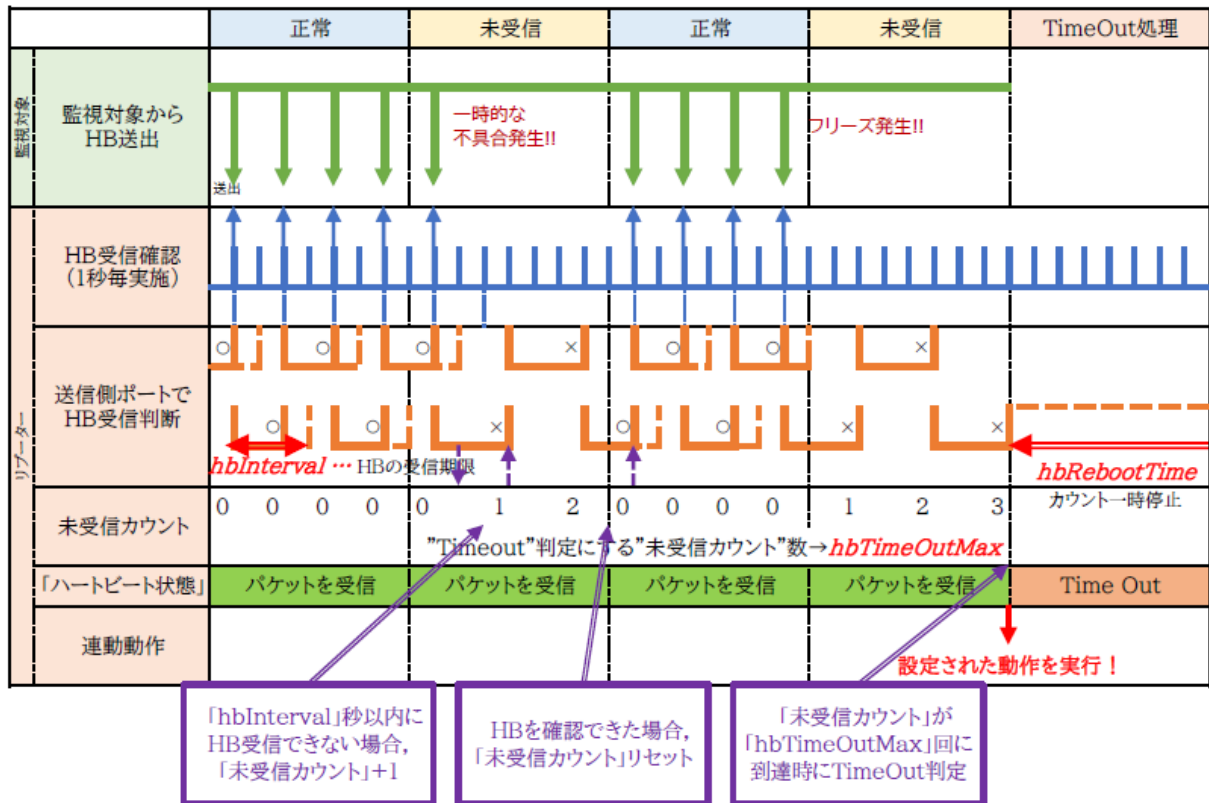
【ハートビートに必要なパケット形式】

UDPパケットのデータ“xxxxxxHB”+CRLFの9文字を受け, “xxxxxxACK”の8文字を返します。(xxxxxxは任意)

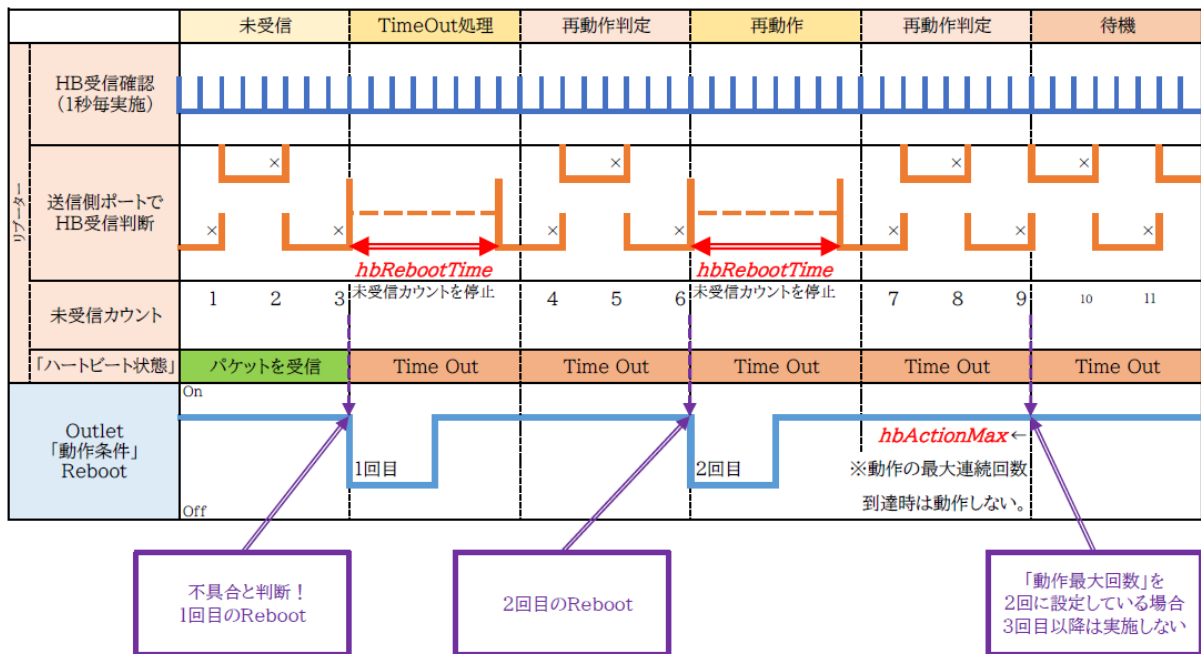
★「ハートビート監視間隔」「TimeOut判定数」「リブート判定後, 無監視時間」の設定がどのように
に連関しているかは次ページの図をご覧ください。

図中では変数名で表記されています。

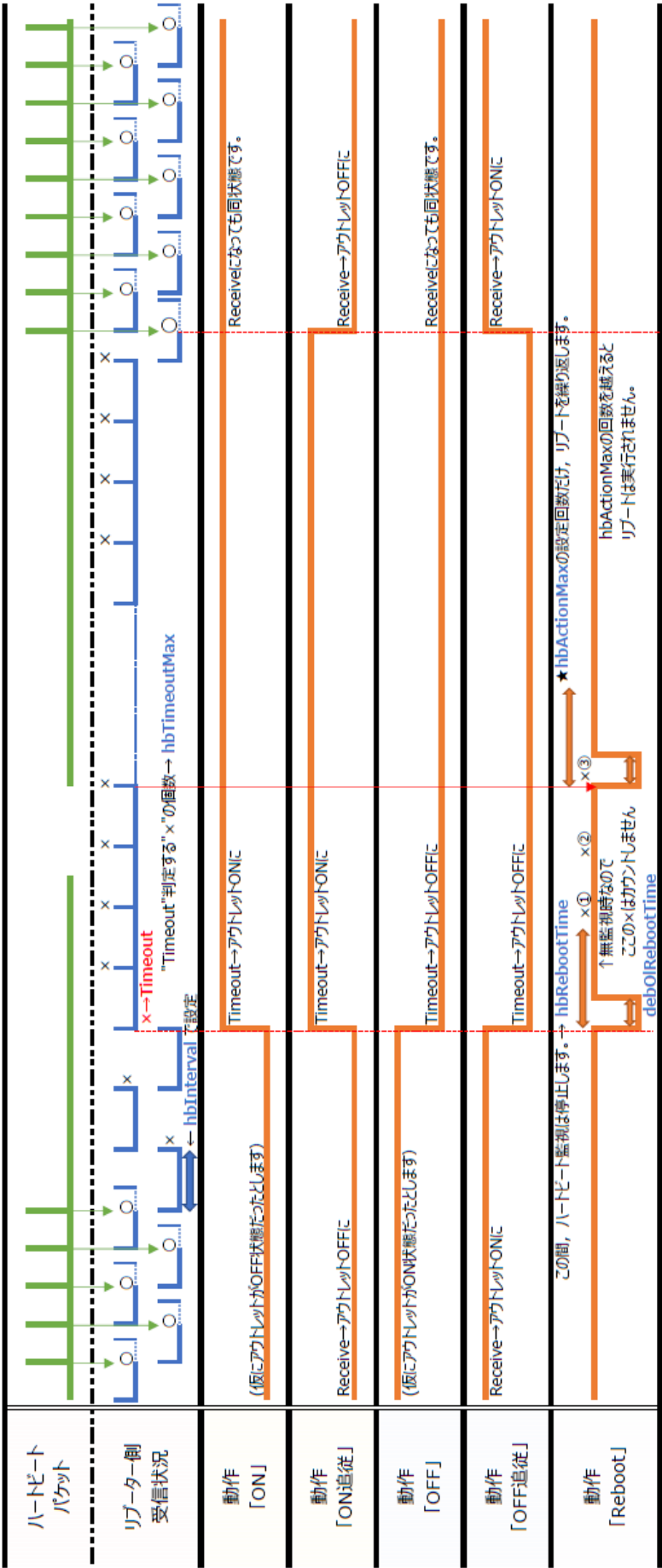
- 変数 hbInterval → 「ハートビート監視間隔」
- hbRebootTime → 「リブート後, 無監視時間」
- hbTimeoutMax → 「TimeOut判定数」



●ハートビートパケットが受信できない状態が続くようになった時



●次ページに、ハートビートパケット受信状況との関連図を載せます。



[4] スケジュール

「スケジュール」をクリックします。

スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット ▼	全て ▼	0	0	無動作 ▼

※仮想アウトレットは「ON」のみスケジュール動作します。
動作にて「メール」設定時, [詳細設定]-[メール設定]の送信条件フラグにて
[F3 スケジュール]をチェックしてください。

適用 リセット

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大20件登録できます。

- 有効 : 設定したスケジュールの有効/無効
 チェックしたNo.が有効になります。
- アウトレット : 制御するアウトレットNo.を選択します。
 [全アウトレット][アウトレット1~2][PoE接続機器1~8]
 [全仮想アウトレット][仮想アウトレット1~8]
- 曜日 : 実行する曜日(毎日または指定曜日)を選択します。
 [全て][日][月][火][水][木][金][土]
- 時 : 実行する時間を入力します。(入力可能値:0~23)

- 分 : 実行する分を入力します。(入力可能値:0~59)
- 動作 : 実行する動作を選択します。
[無動作][Reboot][ON][OFF][メール]
(仮想アウトレットでは[ON]のみ有効)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

★「動作」にて[メール](定時メール)を設定した場合, [ネットワーク設定]-[メール設定]-[送信条件フラグ]にて, 送信したいメールアドレス番号の[F3 スケジュール]にチェックを入れてください。
(チェックを入れ忘れると, [イベントログ]には「定時メール」とログが残るものの, 実際のメール送信がなされないことになります。)

注意	スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。 基本設定で設定してください。 NTPサーバーの接続に失敗した場合は, エラーメッセージが表示されます。
----	---

[5] システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

基本システム情報	
機器名称	Noname
バージョン	4.00A.230112/PoE.230113
モデル名称	PoE8M2
アウトレット数	2
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
PoE接続名称1	PoeDev1
PoE接続名称2	PoeDev2
PoE接続名称3	PoeDev3
PoE接続名称4	PoeDev4
PoE接続名称5	PoeDev5
PoE接続名称6	PoeDev6
PoE接続名称7	PoeDev7
PoE接続名称8	PoeDev8
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	
MACアドレス	00:09:EE:02:89:A6
IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
機器内部時間	
NTPサーバーアドレス	
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
Telnetサーバー機能	無効
Telnetポート	23
LAN速度	100.0Mbps
DIP-SW	1:OFF 2:OFF 3:OFF 4:固定

[6] 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。



E-mail又はWEBコマンド制御の説明

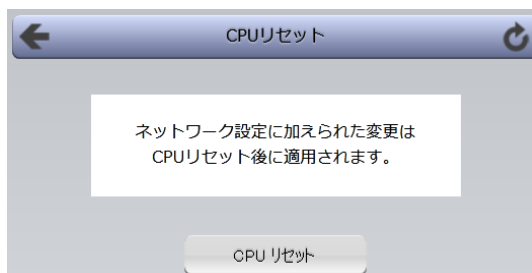
メールを利用して電源制御

WEBによるコマンドの送信方法

コマンドリスト一覧

[7] CPUリセット

画面左側にある, 設定メニューの「CPUリセット」をクリックします。



画面中央の「CPUリセット」をクリックします。

本装置の設定変更が有効となります。

注意 CPUリセットを必要とする内容の場合, 画面に以下の表示が出ます。

CPUリセットを実行して、設定に変更を適用する必要があります。

「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり, 通信が切断されますが, アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

5. 状態表示

[1] 簡易状態表示

(1) 簡易状態表示

現在の受電デバイスの電源状態, 本装置の電源情報を表示します。
画面左側設定項目の「状態表示」-「簡易状態表示」をクリックします。

〈1〉機器情報

機器情報	
機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉PoE対象状態

PoE対象状態									
PoeDev1			PoeDev2			PoeDev3			Po
①	1	NA	更新	2	NA	無効	3	NA	無効
②									
	③	④							

① 「PoE HUB設定」-「PoE機器設定」で設定したPoE機器名称が表示されます。

② 「PoE HUB設定」-「PoE機器設定」のNo.を示します。

PoE機器Ping監視の結果を色で表示します。

正常 : 緑
異常 : 赤
回復中 : 黄色
未設定 : 灰色

③ PoE機器ポート監視の判定結果を表示します。

OK : 異常な監視先が対象数未満 背景 緑
NG : 異常な監視先が対象数以上 背景 赤
NA : 未設定

④ 現在の電源状態を表示します。

ON : 電源ON
OFF : 電源OFF
更新 : Reboot中
NONE : 信号未送信
無効 : 未設定

注意

制御モードによって表示が示す状態が異なります。
☆詳細につきましては第11章3. 制御モードをご覧ください。

〈3〉 アウトレット状態

アウトレット状態				
No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1	Ping監視	正常	ON
2	Outlet2	Ping監視	異常	ON

名称 : 現在設定されているアウトレット名称を表示します。

設定 : 現在設定されている監視設定を表示します。

状態 : 「Ping監視」「メールサーバー監視」、「ハートビート監視」の判定結果を表示します。

【Ping監視, メールサーバー監視】

正常 : 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。

異常 : 異常な監視先が対象数以上, あるいはメールサーバー異常。

回復中 : 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。
メールサーバーは正常。

【ハートビート監視】

Standby : ハートビート監視開始後, パケット受信待ちの状態。

Receive : ハートビートパケットを受信中, または, ハートビートパケットを受信できていないが, 未受信カウントがTimeOut判定数を超えていない状態。

TimeOut : ハートビートパケットが受信できなくなってから, 未受信カウントがTimeOut判定数を超えた状態。

Pause : 「電源供給アウトレット」として設定されたアウトレットが(ハートビート監視以外の要因で意図的に)電源OFFになり, ハートビート監視での動作を停止している状態。

電源 : 現在の電源状態を表示します。

(画面右上の更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

[2] 詳細情報表示

(1) 電源詳細情報

現在の本装置の電源情報, 監視情報を表示します。

画面左側設定項目の「状態表示」-「詳細状態表示」をクリックします。

機器情報				
機器名称	Noname			
設置場所	Nowhere			

アウトレット状態				
No.	名称	監視状態	実行回数	電源状態
1	Outlet1		0	ON
2	Outlet2		0	ON

監視設定内容				
No.	送信数	無応答	対象	動作
1	3	3	1	無動作
2	10	10	1	無動作

監視状態								
	対象1		対象2		対象3		対象4	
No.	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答
1								
2								

PING 応答時間								
	対象1		対象2		対象3		対象4	
No.	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間	
1								
2								

ハートビート状態表示			
No.	動作	実行回数	バケット
1	無効	0	ハートビート無効
2	無効	0	

メールサーバー監視状態	
エラー回数	0

〈1〉 機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
 設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉 アウトレット状態

- 監視状態 : 「Ping監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。
 正常: 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。
 異常: 異常な監視先が対象数以上, あるいはメールサーバー異常。
 回復中: 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。メールサーバーは正常。
 実行回数 : Ping監視とメールサーバー監視の実行された動作の回数を表示します。
 電源状態 : 現在の電源状態を表示します。
 (画面右上の更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

〈3〉 監視設定内容

Ping監視に関する情報を表示します。

- 送信数 : Ping監視のICMPエコー要求送信回数設定値を表示します。
 無応答 : Ping監視の無応答回数を表示します。
 対象 : Ping監視の対象数設定値を表示します。
 動作 : Ping監視とメールサーバー監視の動作を表示します。

〈4〉 監視状態

- 状態 : アウトレットごとに各監視先の応答状態を表示します。
 無応答 : ICMPエコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

〈5〉 Ping応答時間

- 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

〈6〉 ハートビート状態表示

- 動作 : 監視条件設定で指定した動作状態を表示します。
 無効 ON ON追従 OFF OFF追従 Logのみ
 実行回数 : 「動作」の実行数を表示します。
 パケット状態 : パケット状態と未受信カウント数を表示します。
 待機中 タイムアウト発生中 パケットを受信 動作停止中

〈7〉 メールサーバー監視状態

- エラー回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。

(2) PoE詳細情報

現在の受電デバイスの電源状態, 本装置の電源情報, 監視情報を表示します。

画面左側設定項目の「状態表示」-「詳細状態表示」-「PoE詳細情報」をクリックします。

機器情報							
機器名称	Noname						
設置場所	Nowhere						

PoE HUB最終状態		
No.	名称	内容
1	PoeHub1	(0) 正常/未実行
2	PoeHub2	(0) 正常/未実行
3	PoeHub3	(0) 正常/未実行
4	PoeHub4	(0) 正常/未実行

PoE機器Ping監視							
No.	名称	状態	実行	無応	ms	St	給電
1	PoeDev1		0	0	0	0	更新
2	PoeDev2					0	無効
3	PoeDev3					0	無効
4	PoeDev4					0	無効
5	PoeDev5					0	無効
6	PoeDev6					0	無効
7	PoeDev7					0	無効
8	PoeDev8					0	無効

PoE機器Port監視					
No.	名称	状態	実行	無効	最近
1	PoeDev1	正常	0	0	NA
2	PoeDev2				
3	PoeDev3				
4	PoeDev4				
5	PoeDev5				
6	PoeDev6				
7	PoeDev7				
8	PoeDev8				

〈1〉機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
 設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉PoE HUB最終状態

- 名称 : 現在設定されているPoEハブ名称を表示します。

内容 : 最後のコマンド実行結果を表示します。
 ☆詳しくは第4章3. PoE機器管理設定をご覧ください。

〈3〉PoE機器Ping監視

名称 : 現在設定されている受電デバイスの名称を表示します。
 状態 : PoE機器Ping監視の判定結果を表示します。
 [正常][異常][回復中]
 実行 : 「PoE機器Ping監視」の実行された動作の回数を表示します。
 無応 : 「PoE機器Ping監視」の無応答回数を表示します。
 ms : 「PoE機器Ping監視」での監視先の応答時間を表示します。
 St : 各受電デバイスの最後のコマンド実行結果を表示します。
 0 : 正常
 その他の数字 : エラーコード

☆詳しくは第4章3[2](1)PoE機器Ping監視をご覧ください。

給電 : 受電デバイスの給電状態を表示します。
 「システム設定/基本設定/PoE機器設定」で「制御」を「無効」にしていると[無効]と表示されます。
 「システム設定/基本設定/PoE機器設定」で「制御」を「有効」にすると[ON][OFF]状態が表示されます。
 受電デバイスに対して給電制御コマンドを発して状態が変化し、その状態が取得できていない時には[更新]という表示になります。
 「制御」が「有効」になっているポートに受電デバイスが接続されていない場合は[NONE]が表示されます。

〈4〉PoE機器ポート監視

名称 : 現在設定されている受電デバイスの名称を表示します。
 状態 : 「PoE機器ポート監視」の判定結果を表示します。
 [正常][異常][回復中]
 実行 : 「PoE機器ポート監視」の実行された動作の回数を表示します。
 無効 : 「PoE機器ポート監視」のNG応答回数を表示します。
 最近 : 「PoE機器ポート監視」での最近の応答結果を表示します。
 [NA](未実行) [正常] [無応答] [期待外]
 ※「PoE機器ポート監視」の「応答判定モード」も関連します。

☆第4章32PoE機器ポート監視や第11章5.PoE機器ポート監視をご覧ください。

(3) イベントログ

「イベントログ」をクリックします。

通電してから現在までのイベントログを表示します。

「システム設定/基本設定/時刻設定」で「時刻設定」をしていれば、日時がログに残されます。「時刻設定」がされていない時は「通電してからの秒数」が表示されています。

ログリスト			
1	2017/12/19 15:50:52	ログ開始	15:50:53
2	2017/12/19 15:50:53	NTPサーバー接続	192.168.1.129
3	2017/12/19 15:50:55	WEBアクセス	POE Hub 1
4	2017/12/19 15:50:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1
5	2017/12/19 15:51:56	WEBログイン	192.168.1.129
6	2017/12/19 15:51:56	電源操作 (OFF)	アウトレット2
7	2017/12/19 15:52:17	電源操作 (ON)	アウトレット2
8	2017/12/19 15:55:56	POEスクリプト実行	POE Hub 1
9	2017/12/19 15:56:14	UTY接続	192.168.1.83
10	2017/12/19 15:56:14	UTYログイン	192.168.1.83
11	2017/12/19 15:56:14	UTYログインせず切断	192.168.1.83
12	2017/12/19 15:57:01	POE死活判定 (REBOOT)	POE Device 1
13	2017/12/19 15:57:14	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev.1
14	2017/12/19 15:57:22	POEスクリプト実行	POE Hub 1
15	2017/12/19 16:00:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1
16	2017/12/19 16:03:01	POE正常/回復中	POE Device 1
17	2017/12/19 16:03:05	POE操作 (給電OFF)	POE Device 1
18	2017/12/19 16:03:07	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev.1
19	2017/12/19 16:03:15	POEスクリプト実行	POE Hub 1
20	2017/12/19 16:05:56	POEスクリプト実行	POE Hub 1
21	2017/12/19 16:06:55	UTY接続	192.168.1.83
22	2017/12/19 16:06:55	UTYログイン	192.168.1.83
23	2017/12/19 16:06:55	UTYログインせず切断	192.168.1.83
24	2017/12/19 16:08:29	UTY接続	192.168.1.83
25	2017/12/19 16:08:29	UTYログイン	192.168.1.83
26	2017/12/19 16:08:29	UTYログインせず切断	192.168.1.83
27	2017/12/19 16:10:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1
28	2017/12/19 16:11:43	POE操作 (給電ON)	POE Device 1
29	2017/12/19 16:11:46	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev.1
30	2017/12/19 16:11:54	POEスクリプト実行	POE Hub 1

表示領域	機器時刻
1 - 30 (総数 30)	2017/12/19 16:14:15

前ページ	次ページ	先頭ページ	最終ページ
Text 表示	全ログクリア		

- 前ページ : 前ページを表示します。
- 次ページ : 次ページを表示します。
- 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- 最終ページ : 最終ページを表示します。
- Text 表示 : WEB画面にイベントログを表示します。
- 全ログクリア : ログを消去します。

注意 1ページは100項目単位で表示します。
最大10ページ, 1000項目のログを表示可能です。

注意 本製品の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。「イベントログ」記録開始前に実行されるため、ログには記録されずに実行されます。）

6. 制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

[1] 電源制御

(1) 電源制御

電源制御をクリックします。

The screenshot shows a web interface for power control. At the top is a blue header '機器情報' (Device Information). Below it are two rows: '機器名称' (Device Name) with value 'Noname' and '設置場所' (Installation Location) with value 'Nowhere'. Below this is another blue header 'アウトレット情報' (Outlet Information). Underneath is a table with columns: 'No.', '名称' (Name), '制御' (Control), and '電源状態' (Power Status).

No.	名称	制御	電源状態
1	Outlet1	ON OFF Reboot	ON
2	Outlet2	ON OFF Reboot	ON
	All Outlets	ON OFF Reboot	

〈1〉アウトレット情報

「制御」

- 名称 : 設定されているアウトレット名称を表示します。
- ON : 電源出力を開始します。
- OFF : 電源出力を停止します。
- Reboot : 電源出力をOFF→ONします。

「All Outlets」

- ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。
- OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。
- Reboot : 全アウトレットの電源出力をOFF→ONします。

「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

注意 電源制御画面は「ネットワーク設定」「基本設定」「HTML表示設定」で「自動ページ更新設定」が「無効」であっても「自動ページ更新時間(秒)」に基づき自動で更新されます。

(2) 仮想制御

仮想アウトレットとは実際には存在しないアウトレットです。MACアドレスを指定してマジックパケットを送出し、Wake on LAN 対応機器の電源をONにする機能です。仮想アウトレットを使用して対象機器の電源をOFFにすることはできません。

「電源制御」→「仮想制御」をクリックします。

機器情報		
機器名称	Noname	
設置場所	Nowhere	
仮想アウトレット (WoL)		
No.	仮想アウトレット名称	WoL 送信
1		ON
2		ON
3		ON
4		ON
5		ON
6		ON
7		ON
8		ON
	全仮想アウトレット	ON

〈1〉仮想アウトレット(WoL)

- 仮想アウトレット名称 : 現在設定されている仮想アウトレット名称を表示します。
 WoL送信 : 指定の仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。
 全仮想アウトレット : 全仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。

注意 本製品の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。(「イベントログ」記録開始前に実行されるため、ログには記録されずに実行されます。)

(3) 一斉制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を子機として最大8グループに分け、親機から各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することができる機能です。制御には、ブロードキャストパケットを利用しています。(操作した電源制御の結果、負荷機器が動作したことを視認[直に、もしくは監視カメラなど越しに]できる状態でこの機能をご使用ください。)

1グループにつき、10台まででご使用ください。

「電源制御」→「一斉制御」をクリックします。

(1) 一斉制御コマンド

本装置を一斉制御の親機として制御を行う場合は、こちらのメニューを使用します。

グループ指定 : 制御するグループを選択します。

Group 1～Group 8

デフォルト Group 1

制御 : 実行する動作を選択します。

PowerON PowerOFF Reboot

デフォルト PowerON

送信 : クリックで一斉制御コマンドを送信します。

クリック後、一度カウント画面に遷移した後、結果表示されます。

【返答情報】

「--- waiting response --- [IPアドレス]--- command executed」

→該当IPアドレスのリブーターにて、コマンドを受信した。

※ 子機を複数台接続している場合は、コマンド実行された台数分の「[IPアドレス]--- command executed」が表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

「--- waiting response ---」

→コマンドを受信しなかった。3秒内で返答パケットが届かなかった。

(対象リブーターの通信状況を確認してください)

★本装置を、子機として一斉電源制御を受け付ける状態に設定したい場合は、メンテナンスモード(DIPスイッチ3がON)にてグループ設定をする必要があります。

「排他制御方式」選択時、一斉電源制御を受け付ける状態になると、WEB画面での操作はできなくなります。Telnet通信においてSupervisor権限でのログインは可能です。(「ガードタイム方式」であればWEB画面にもアクセスできます。)

☆一斉電源制御については、第7章一斉電源制御に詳細がございますのでご覧ください。

[2] PoE出力制御

「PoE出力制御」をクリックします。
制御モードによって表示される画面は異なります。

【パナソニックLSネットワーク製品モード】

機器情報

機器名称

Noname

設置場所

Nowhere

PoE 接続機器情報

PoE HUB 最新状態

更新

現在 0 個のコマンドが待機中です。

詳細

PoE HUB 設定状態

参照

PoE 接続機器制御

No.	名称	制御	St	給電
1	apr		0	不明
2	pana	ON OFF Reboot	0	ON
3	PoeDev3		0	無効
4	PoeDev4		0	無効
5	PoeDev5		0	無効
6	PoeDev6		0	無効
7	PoeDev7		0	無効
8	PoeDev8		0	無効

【一般モード】・【APRESIA SNMP制御】

機器情報

機器名称

Noname

設置場所

Nowhere

PoE 接続機器制御

PoE 出力制御

Device01

ON

実行

NONE

PoE HUB 設定情報

PoE 接続機器指定

Device 1

取得

PoE HUB指定

Hub 1

(※ページ数: 2)

取得

Dev 1, Hub 2/Port 1, Sts=0. [10 秒経過]

Hub 2, port configuration

Port: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

Dev.: 1 - - - - -

show poe ports 1

Command: show poe ports 1

Port	State	Priority	Power Limit(mW)
Class	Power(mW)	Voltage(decivolt)	Current(mA)
Status			
=====			
1	Enabled	Low	15400(User-defined)
0	2100	499	44
ON : 802.3af-compliant PD was detected			

☆具体的な使用方法については、第4章3.PoE機器管理設定, 10章 PoEハブとの接続をご覧ください。

(1) PoE接続機器情報

【パナソニックLSネットワーク製品モード】のみ

PoE 接続機器情報	
PoE HUB 最新状態	更新
現在 0 個のコマンドが待機中です。	詳細
PoE HUB 設定状態	参照

「更新」ボタンを押すことで、PoEハブの最新状態を取得することができます。

「現在 * 個のコマンドが待機中です。」の * 部分の数値が更新されます。

★1回押すことで取得しようとします。何度も連続してボタンを押さないようにしてください。

「詳細」ボタンを押すと、「待機中コマンドリスト」の画面に切り替わり、待機中のコマンドを表示させることができます。

待機中コマンドリスト		
1	6	PoE GetSTS by Update
実行・待機中コマンド数		機器時刻
1		2022/04/05 16:38:57

「参照」ボタンを押すと、「PoE HUB設定情報」画面に切り替わります。→(3)参照

(2) PoE接続機器制御

【パナソニックLSネットワーク製品モード】

PoE 接続機器制御				
No.	名称	制御	St	給電
1	apr		0	不明
2	pana	ON OFF Reboot	0	ON
3	PoeDev3		0	無効
4	PoeDev4		0	無効

名称 : 現在設定されている受電デバイス名称を表示します。

制御 : [ON][OFF][Reboot]コマンドが出せます。

受電デバイスが接続されていない時はコマンドボタンが表示されません。

St : 正常であれば「0」

異常があればそのエラーコードが表示されます。

●数字をクリックするとエラー内容が表示されます。

給電 : 受電デバイスの給電状態を表示します。

☆表示に関しては, 第11章3. 制御モードをご覧ください。

【一般モード】・【APRESIA SNMP制御】

PoE出力制御 : 現在設定されている受電デバイス名称を表示します。

制御 : 受電デバイス, [ON][OFF][Reboot]コマンドをプルダウンメニューで切り替えて「実行」をクリックします。

(3) PoE HUB設定情報

PoE HUB 設定情報

PoE 接続機器指定: Device 1 ▼ 取得

PoE HUB指定: Hub 1 ▼ (※ページ数: 1) 取得

Dev 1, Hub 1/Port 2, Sts=0. [10 秒経過 (2022/04/07 10:35:56)]

Hub 1, port configuration

Port	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
Dev.	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

show power inline gi0/2
Available:67.0(w) Used:7.0(w) Remaining:60.0(w)

Interface	Admin	Oper	Power (Watts)	Device	Class	Max
Gi0/2	auto	on	7.0	Ieee PD	2	30.0

Interface	AdminPowerMax (Watts)	AdminConsumption (Watts)
Gi0/2	30.0	15.4

meikyo#

「PoE 接続機器指定」, 「PoE HUB指定」で、情報を取得したい機器をプルダウンメニューで選択後, 「取得」をクリックします。

取得した情報を表示させるには, 画面の自動更新を待つか, 画面左上の更新ボタンを押してください。

第5章 その他の設定

1. Telnetによる設定

[1] Telnetでの接続方法

- 1)PCの「スタート」を右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス :192.168.10.1
Telnetポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※_はスペースを表します。

- 2)プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220 PoE8M2 (Noname) server ready

- 3)任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
4)ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

デフォルト: Admin権限

ID: admin PW: magic

Supervisor権限

ID: super PW: illusion

注意 ブラウザー接続時のIDとパスワードはTelnet接続時のIDとパスワードとは別になります。

デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

★コマンド(ID, PASS)により変更して利用することをおすすめします。

「排他制御方式」選択時は、電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法で新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

「ガードタイム方式」選択時は、Telnet通信でも多重ログインが可能になります。(Telnetサーバーとしては最大接続数2)

[2] Telnetコマンドによる設定

1)「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、Telnetで本装置にログインします。
【「telnet [IPアドレス]」と入力してください。】

2)コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ Telnet通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

☆変数については「■変数一覧表」を参照ください。

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、「LOAD_BEGIN」から始まり、変数設定コマンド、「LOAD_END」までをテキストデータとして出力します。このテキストデータをテキストドキュメントなどに設定データとして保存しTelnetで送信すると、保存された設定が復元されます。

Telnet用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されません(※下記参照)のでご注意ください。

設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。

なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。

変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。

長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)

ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1としてください。

※保存されないもの

- ・Telnet用のパスワード
- ・(Read Only)の変数

■ プロンプトやコマンドについて

Telnetからアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。

「？」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。

どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0(プロンプト表示無し)
		1(「 > 」のプロンプト表示)
		2(「 機器名 > 」のプロンプト表示)

第6章

その他の制御

1. Telnet接続による制御

本装置はTelnetサーバープログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

[1] Telnet接続による制御

- 1) PCの「スタート」を右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、Telnetで本装置にログインします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1
Telnetポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※「_」はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220 PoE8M2 (Noname) server ready

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

- 4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

デフォルト: Admin権限

ID: admin PW: magic

Supervisor権限

ID: super PW: illusion

- 5) 制御コマンドを入力して、< Enter >キーで実行します。

注意 「排他制御方式」選択時は、電源制御可能な他のユーザーが(WEBブラウザーなどで)ログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、(Telnet接続での)supervisor権限ではログインすることが可能です。「ガードタイム方式」選択時、Telnet通信でも多重ログインが可能になります。(Telnetサーバーとしては最大接続数2)

ブラウザー接続時のIDとパスワードはTelnet接続時のIDとパスワードとは別になります。デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

★コマンド(ID, PASS)により変更して利用することをおすすめします。

■ 応答コマンド

正常受付	: Command OK
不正なコマンド	: Unrecognized command
前コマンドの処理中のため コマンド実行せず	: Last command is pending. Command failed.
今の権限では実行不可	: Not have authority.
実行が許可されていない	: Permission denied.

親機として一斉制御コマンド(BPONx, BPOFx, BPORx)をTelnetで実行の後は、上記の応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

コマンド受信成功 : --- waiting response ---
[IPアドレス]--- command executed

子機を複数台接続している場合は、コマンド実行された台数分の
[IPアドレス]--- command executedが表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブータの通信状況を確認してください。

コマンド受信成功したが、電源制御は実行せず
: --- waiting response ---
[IPアドレス]*** command failed

ガードタイム中や遅延時間中にコマンドを実行した場合に表示されます。

ガードタイムや遅延時間によって電源制御コマンドが受け付けられなかったことを表します。

コマンド受信失敗 : --- waiting response ---

未設定のグループへコマンド実行した場合や、通信状態が悪い場合に表示されます。

コマンドが誤っている : --- waiting response ---
[IPアドレス]*** invalid command

☆詳細につきましては、第7章2.[3]Telnetでの制御をご覧ください。

2. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

- 注意
- 「通信設定-メール設定-通知先設定」の[通知先アドレス]に設定したメールアドレスからのみメール制御できます。
 - HTMLメールではメール制御できません。必ずテキスト形式メールをご使用ください。

1. 本装置に、テキスト形式メールを送信します。

件名(タイトル)は特に必要ありません。

本文1行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。

本文2行目に「メール制御パスワード」を入力します。

本文3行目以降にコマンドを入力します。

コマンドを入力し改行を入れます。

- コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。

☆使えるコマンドは第12章 ■制御コマンド一覧表をご覧ください。

本文最終行に「QUIT」コマンドを入力します。

「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトできます。

2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

- 注意
- ☆メール制御ユーザー名とパスワードについては、第4章4[2](3)〈2〉メール制御設定をご確認ください。
 - メールでの「電源制御」を行う場合、「ガードタイム方式」でなければ実行できません。

3. WEBコマンドからの制御

WEBからダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEBコマンドでの制御方法

WEBコマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

[[HTTP認証]が「None」の場合]

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例:)ユーザーID:admin / パスワード:magic / コマンド:por2

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por2

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por2

●1回実行することにより、HTTPのセッションが切れ、ログアウト状態に戻ります。

[[HTTP認証]が「Basic」「Digest」]

?command= [利用コマンド]

例:)コマンド:por2

http://192.168.10.1/cmd.htm? command=por2

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?c=por2

●実行時、ポップアップでID、PASSが求められます。実行後もHTTPのセッションを保持します。
ログアウトする場合、http://[IPアドレス]/logout を実行してください。

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin supervisor]

VER	POS	XPOS	OLS	OLSn
POEOS	POEOU			

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn	POFn	PORn	MPON	
MPOF	MPOR	PSRn	PONVn	MPONV
POEONn	POEOFn	POEORn		

WEBからダイレクトコマンドで電源制御すると、結果がテキスト形式で表示されます。

注意	<p>☆第4章4.1〈3〉アウトレット設定, (5)〈1〉共通設定, [2](1)〈3〉ダイレクトWEBコマンドの各項目を設定してご利用ください。</p> <p>★[ガードタイム方式]かつ「電源制御時の動作確認:なし」の時のみ、電源制御可能です。</p>
----	--

4. MPMPでの制御

明京電機オリジナルプロトコルMPMPパケット(UDP)を使用して、電源やCPUリセットを遠隔で実行できます。

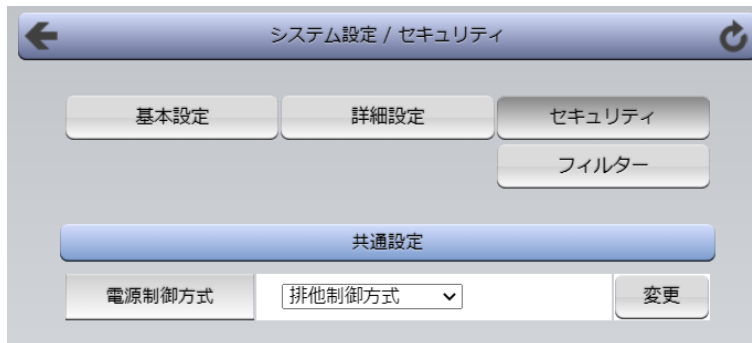
[1] リブーター側の設定

MPMPでの電源制御を行えるようにするためには以下の設定が必要です。

- (1) 「電源制御方式」を[ガードタイム方式]に設定する。
- (2) MPMPでの制御に使用する「ID」「PASSWORD」を設定する。
- (3) 結果通知を有効にするため、「状態通知機能」で[MPMP]を選択し、通知を受信する端末のIPアドレスを登録しておく。

(1) ガードタイム方式の設定

「システム設定」-「セキュリティ」-「共通設定」で設定します。



「電源制御方式」を[ガードタイム方式]に切り替え、[変更]ボタンをクリックします。

(デフォルトは[排他制御方式])

ポップアップで表示される注意文の内容に同意の上、[OK]をクリックしてください。

変更後はCPUリセットが必要となります。

その後、各種ガードタイムを設定できます。

(2) MPMP制御用ID, パスワード

「システム設定」-「セキュリティ」-「MPMPコマンド制御」で設定します。

ユーザーID : 半角英数記号5字以内

パスワード : 半角英数記号7字以内

★3セット, 登録できます。

(3) 結果通知先IPアドレス登録

「ネットワーク設定」-「詳細設定」-「状態通知機能」で設定します。

(2)でID, パスワードを登録した「No.」に各項目を登録します。

状態通知機能 : [MPMP]を選択 (デフォルトは[無効])

IPアドレス : 通知を受信する端末のIPアドレス

ポート : 任意 (デフォルト:5000)

[2] MPMPパケット送信

UDP/IPの設定を以下の通り設定して、MPMPパケットを送信します。

ローカルポート : [1](3)で設定したポート番号（デフォルトであれば, 5000）
送信先ポート : 15580 （このポート番号は固定）
送信先IPアドレス : 「ネットワーク設定」-「基本設定」にて設定した本装置のIPアドレス

コマンドで実行できるのは以下となります。

- (1) 電源制御
- (2) CPUリセット
- (3) 仮想アウトレット(WoL)

注意 実際の運用方法をお考えの場合, 弊社営業部にお問い合わせください。

★[ガードタイム方式]でなければ制御可能になりません。

第7章

一斉電源制御

1. 一斉電源制御とは

[1] 概要

一斉電源制御とは、複数の本装置を子機として最大8グループに分け、親機から各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することができる機能です。制御には、ブロードキャストパケットを利用しています。(操作した電源制御の結果、負荷機器が動作したことを視認[直に、もしくは監視カメラなど越しに]できる状態でこの機能をご使用ください。)

1グループにつき、10台まででご使用ください。

親機、子機の組み合わせについては、弊社リブーターで一斉制御機能があるものであれば、機種問わず組み合わせることができます。

子機[一斉電源制御受付状態の機器]の時、「ガードタイム」方式設定時はWEB画面でログインすることができますが、「排他制御」設定時はWEB画面にアクセスすることができなくなります。その場合はTelnet通信にてsupervisor権限でログインして設定を行います。

☆「ガードタイム」「排他制御」については第4章4. [1](5)セキュリティをご覧ください。

一斉制御のコマンドを実行すると、親機から以下の2種の応答があります。

親機側の応答 : 親機から子機へ一斉制御コマンドを送信した
子機側の応答 : 一斉制御コマンドを受信した

応答通知は親機の制御方法(WEB, Telnet)により異なります。

次に続く、各制御方法の応答内容をご確認ください。

2. 親機として使用する場合

[1] 設定

(1) MACアドレスの確認

本装置のMACアドレスを確認し、メモ等に控えます。

MACアドレスは、製品底面に貼付されたシリアルラベルの記載内容を確認するか、「機器設定」の「システム情報」から確認することができます。

グループの設定と、MACアドレスの入力は子機側で行います。

☆次に続く3. 子機をご参照ください。（子機側の機種、バージョンによって画面構成、項目名が異なります。該当機種の詳細取説をご確認ください。）

[2] WEBでの制御

(1) 一斉制御コマンド

「電源制御」→「一斉制御」をクリックします。

本装置を一斉制御の親機として制御を行う場合は、こちらのメニューを使用します。

グループ指定 : 制御するグループを選択します。

Group 1～Group 8

デフォルト Group 1

制御 : 実行する動作を選択します。

PowerON PowerOFF Reboot

デフォルト PowerON

送信 : クリックで一斉制御コマンドを送信します。

クリック後、一度カウント画面に遷移した後、結果表示されます。

(2) 返答情報

応答結果は返答情報として画面表示されます。

・コマンド受信成功

--- waiting response --- [IPアドレス]--- command executed

※子機を複数台接続している場合は、コマンド実行された台数分の
[IPアドレス]--- command executed」が表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

・コマンド受信失敗, またはコマンド受信成功したが, 電源制御は実行せず

--- waiting response ---

※親機からのコマンドは届いているが、ガードタイム中や遅延時間中などでコマンド実行を行わなかった場合や、子機から3秒内で返答パケットが届かなかった場合もこの表示となります。

実行に時間を置かず、通信状況の確認を行ってください。

[3] Telnetでの制御

(1) コマンド実行

Telnetで一斉制御を行う際、使用するコマンドは以下のものです。(x=1~8, xはグループ番号を示します)

BPONx : 該当グループ全アウトレットの電源出力開始
 BPOFx : 該当グループ全アウトレットの電源出力停止
 BPORx : 該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

(2) 返答情報

親機として一斉制御コマンド(BPONx, BPOFx, BPORx)をTelnetで実行の後は、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

以下は、グループ1に2台設定した場合の例となります。

・コマンド受信成功

```
Noname> BPON1 220 Command OK.
--- waiting response ---
Noname> 192.168.1.100 --- command executed
Noname> 192.168.1.110 --- command executed
--- waiting response ---
[IPアドレス]--- command executed
```

※子機を複数台接続している場合は、コマンド受信した台数分の

[IPアドレス]--- command executedが表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

・コマンド受信成功したが、電源制御は実行せず

```
Noname> BPON1 220 Command OK.
--- waiting response ---
Noname> 192.168.1.100 *** command failed
Noname> 192.168.1.110 *** command failed
--- waiting response ---
[IPアドレス]*** command failed
```

ガードタイム中や遅延時間中にコマンドを実行した場合に表示されます。

ガードタイムや遅延時間によって電源制御コマンドが受け付けられなかったことを表します。

・コマンド受信失敗

```
Noname> BPON3 220 Command OK.
--- waiting response ---
--- waiting response ---
```

未設定のグループへコマンド実行した場合や、通信状態が悪い場合に表示されます。

・コマンドが誤っている

```
--- waiting response ---
[IPアドレス]*** invalid command
```

3. 子機として使用する場合

[1] 設定

(1) 受付状態設定方法

〈1〉メンテナンスモードのWEB画面にて設定を行う方法

1) 本体起動後、本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし、RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。

「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。

アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモード機器設定画面の下部(赤の枠)で以下の項目を設定します。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	PoESM2
バージョン	4.00A.230112
MAC アドレス	00:09:EE:02:8C:44
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

子機グループ : Disabled[デフォルト]
Group1~8

親機MACアドレス: 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを指定します。

3) 「適用」を押し、DIPスイッチをすべてOFF(上)にして、RESETボタンを押すと一斉電源制御受付状態になります。

注意 デフォルト設定の「排他制御方式」時には、一斉電源制御受付状態になるとWEB画面にアクセスすることができません。本装置と通信するためにはTelnet通信においてSupervisor権限でログインする必要があります。ただし、Telnet機能はデフォルトでは「無効」となっています。(画像の緑の枠)

(ガードタイム方式であれば、受付状態であってもWEB画面にアクセス可能です)

「排他制御方式」設定で一斉電源制御受付状態にする場合は、「Telnet機能」を「有効」に設定にしておいてください。

〈2〉「ガートタイム方式」選択時、(運用モード)WEB画面にて設定する方法

「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで、以下の項目を設定します。

一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。

適用をクリックし、CPUリセットを行います。

〈3〉Telnet通信にて設定を行う方法

1)Telnet通信でログインしてください。

2)ログイン後、「.broadGroup=1」と入力し、エコーが返ってきたなら、「write」コマンドで書き込みます。

3)「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

(2) 受付状態解除方法

〈1〉「排他制御」選択時, WEB画面にて解除を行う方法

1) 本体起動後, 本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし, RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。

「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。

アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモード機器設定画面の下部(赤の枠)で子機グループをDisabledにします。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	PoE8M2
バージョン	4.00A.230112
MAC アドレス	00:09:EE:02:8C:44
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続
IP フィルター	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
子機グループ	Disabled
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

※親機MACアドレスは入力されたままでも構いません

3) 「適用」を押し, DIPスイッチをすべてOFF(上)にして, RESETボタンを押します。

〈2〉「ガートタイム方式」選択時, WEB画面にて解除する方法

1) 「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

2) 一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで, 子機グループをDisabledに切り替えます。

一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

※親機MACアドレスは入力されたままでも構いません

3) 適用をクリックし, CPUリセットを行います。

〈3〉Telnet通信にて解除する方法 [「排他制御方式」選択時など]

- 1) Telnet通信において, Supervisor権限でログインしてください。
- 2) ログイン後, 「.broadGroup=0」と入力し, エコーが返ってきたなら, 「write」コマンドによって受付状態無効を書き込みます。
- 3) その後, 「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

受付状態が無効になったため, WEB画面にアクセスすることが可能になっています。

〔2〕待受状態時の制御・設定

「排他制御」設定の場合, 一斉制御待受状態時, WEB画面にアクセスできず, 電源制御や設定変更などが行えなくなります。(「ガードタイム方式」設定であればWEBアクセス可能です。)
Telnet通信ではsupervisor権限でしかログインができません。(変数による設定変更は可能ですが, 電源制御は行えません。)(「ガードタイム方式」であれば, admin権限でもログインできます。)

注意	子機側の各アウトレットに設定されたリブート時間, ON遅延時間, またガードタイム時間の設定によって, 一斉制御のコマンドが届くタイミングによっては実行されないことがあります。
----	--

第8章

ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) Telnetによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定および記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を0ビットとし、32ビットの構成になっています。

0:無, 1:有

ビット		ビット	
31	: 不使用	14	: 不使用
30	: 不使用	13	: Telnetログイン・ログアウト
29	: 不使用	12	: Telnet接続・切断
28	: 不使用	11	: Webログイン・ログアウト
27	: 不使用	10	: Web接続
26	: 不使用	9	: メールログイン・ログアウト
25	: スクリプト実行/失敗 ※2	8	: メール不正アクセス
24	: 不使用	7	: 不使用
23	: 不使用	6	: 不使用
22	: 不使用	5	: 不使用
21	: NTPアクセス	4	: 電源制御コマンド
20	: 不使用	3	: 不使用
19	: PoE制御/状態変化	2	: Ping監視によるイベント ※1
18	: 不使用	1	: Ping無応答 ※1
17	: 変数設定, write	0	: Ping送信 ※1
16	: サーバー関連イベント		
15	: 不使用		

※1 PoE機器Ping監視, PoE機器ポート監視に伴うログも含まれます

※2 PoE HUB接続スクリプトのログも含まれます

Telnet通信による設定例

- ・Ping監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合
.logMode=00000000000000000000000000110100
- ・全て表示する場合
.logDisp=11111111111111111111111111111111(デフォルト)
- ・接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
変数を変更せずにLOGDISPコマンドで表示を変更できます。
LOGDISP=00000000000001000000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示(連番号順)
LOG_n	ログの表示(最新n個)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒=現在時刻 e0 = t0 NTP接続までの経過秒=最初の取得時刻 NTP無効の場合はeのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリアおよび記録時間のリセット

ログの表示数は20項目です。
 <Enter>キーで続きの20項目を表示します。

■ ログの表示形式

```
nnn  ttt  a  b  xxxxxxxx  c
```

nnn	:	連番号
ttt	:	NTP無効時:記録開始からの時間(秒)
yy.mm.dd hh:mm:ss	:	NTP有効時:年月日時分秒
a	:	アウトレット番号
b	:	Ping送信先番号(1~4番)
xxxxxxxx	:	イベント
c	:	IPアドレス

→記録されるログに関しては「第12章 ■ログ一覧表」をご覧ください。

PoE8M2	0	Ping送信																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
--------	---	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第9章

SNMP

エージェント機能

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理を行うことができます。

SNMPでは電源制御は行えません。

2. 機器設定

本装置をTelnet接続にて下記の項目を設定してください。

☆詳細は、第6章1.Telnet接続による制御をご参照ください。

① SNMPのSET, GET有効化

変数	:	snmpGetSetEnabled
デフォルト	:	0
		(0:無効 1:有効)

② SNMP TRAPの有効化

変数	:	snmpTrapEnabled
デフォルト	:	0
		(0:無効 1:有効)

③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知

変数	:	snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト	:	2
		(1:有効 2:無効)

④ TRAP送信回数

変数	:	snmpTrapSendN
デフォルト	:	1
		(1~9)

⑤ TRAP送信間隔(秒)

変数	:	snmpTrapSendInterval
デフォルト	:	1
		(1~9)

⑥ TRAP送信先アドレス

変数	:	snmpTrapAddr
デフォルト	:	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
		(8箇所)

⑦ SNMP用フィルターの有効化

変数	:	snmpFilterEnabled
デフォルト	:	0 (0:無効 1:有効)

⑧ フィルター有効時許可するアドレス

変数	:	snmpFilterAddr
デフォルト	:	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0 (10箇所)

⑨ フィルター有効時のMask

変数	:	snmpFilterEnabled
デフォルト	:	255.255.255.255,255.255.255.255, 255.255.255.255,255.255.255.255, 255.255.255.255,255.255.255.255, 255.255.255.255,255.255.255.255, 255.255.255.255,255.255.255.255 (10箇所)

⑩ SNMP GETコミュニティー名

変数	:	getCommunity
デフォルト	:	Public

⑪ SNMP SETコミュニティー名

変数	:	setCommunity
デフォルト	:	Public

⑫ SNMP TRAPコミュニティー名

変数	:	trapCommunity
デフォルト	:	Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。

当社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> よりMEIKYO.MIBをダウンロードしご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
----	---

第10章
ネットワーク
稼動監視

1. 機器設定

本装置からUDPのパケットを送出し、電源状態を通知することができます。

「RPC EYE V4」(オプション 有償ソフトウェア)を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④はWEB通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数	:	syslogEnabled
デフォルト	:	0
		0:無効
		2: MPMPパケットフォーマットで送信
		3: MSRPパケットフォーマットで送信

RPC EYE V4を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数	:	ipAdCenter
デフォルト	:	
		(3箇所)

RPC EYE V4を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数	:	centerPort
デフォルト	:	5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔(秒)

変数	:	centerSendTimer
デフォルト	:	300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数	:	centerChangeSendCount
デフォルト	:	3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔(秒)

変数	:	centerChangeSendTimer
デフォルト	:	10

2. RPC EYE V4の利用

RPC EYE V4は、RPCシリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼働状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼働監視ソフトです。

以下の特長があります。

- ・死活監視 電源状態の表示と監視
- ・アイコンによるビジュアルな状態表示
- ・リアルタイムに見られる詳細な情報ビューア
- ・受信情報のデータ保存(CSV形式)
- ・状態変化時にE-mailまたは音による通知機能
- ・個別の機器への接続機能(HTML or Telnet)
- ・1本のソフトでPC3台まで利用できます。
- ・(PRO版のみ)グループ単位での設定書込
- ・(PRO版のみ)グループ電源制御

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<https://www.meikyo.co.jp/product/?ca=4>

設定前の確認

設定用PCと本装置をLANで確実に接続してください。

RPC EYE V4をPCにインストールしてください。

RPC EYE V4はWindows対応ソフトです。

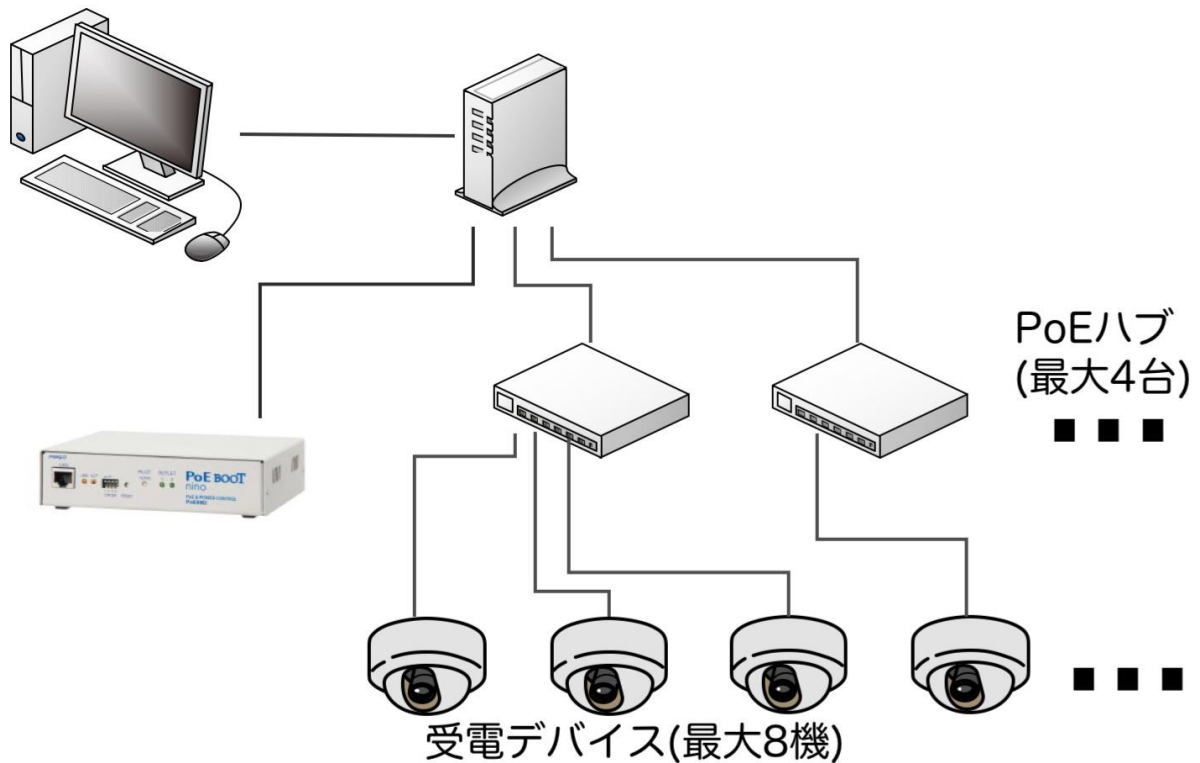
RPC EYE V4の設定、利用方法は、RPC EYE V4説明書(PDFファイル)をご覧ください。

注意	RPC EYE V4で本装置のアウトレットの状態は確認できますが、PoEハブに接続された受電デバイスの電源状態は取得することはできません。
----	---

第11章 PoEハブとの 接続

1. 概要

- ・PoE給電対応ハブ(以下, PoEハブと呼ぶ)にTelnet接続し, PoEハブの任意のポートの給電ON, OFFを操作することにより, そのポートに接続されている受電デバイス(IPカメラなど)のON, OFF, REBOOT制御を行うことができます。
- ・最大4台のPoEハブを通して, 最大8機の受電デバイスの制御が可能です。
- ・受電デバイスのIPアドレスを設定し, それらに対する死活監視(Ping監視)を行うことができます。



2. 接続・設定

[1] 設定方法

「PoE機器管理設定」の「HUB・機器設定」をクリックし、接続、設定を行います。

☆詳細につきましては第4章31HUB・機器設定をご覧ください。

3. 制御モード

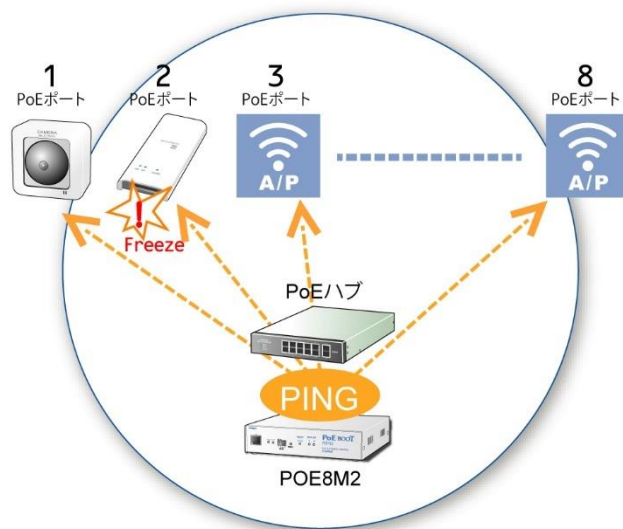
[1] PoEハブ 制御モードによる相違点

	パナソニックLSネットワーク製品	一般, APRESIA SMNP制御
概要	<p>本モードは、パナソニックLSネットワークス社製MNOシリーズのPoEハブに適したモードです。</p> <p>PoEハブと通信し、PoEハブから特定の受電デバイスへの〔給電モード〕を制御することに加えて、PoEハブからの〔設定情報〕を分析し実際の受電デバイスへの〔給電状態〕を知ることができるようになっています。</p>	<p>一般: 本モードは、PoEハブと通信し、PoEハブから特定の受電デバイスへの〔給電モード〕を制御することが可能ですが、PoEハブからの〔設定情報〕の分析は行いません。実際の受電デバイスへの〔給電状態〕については〔設定情報〕そのものを参照していただくことになります。</p> <p>APRESIA SMNP制御:</p> <p>本モードはAPRESIA Systems社製ApresiaLightGSシリーズのPoEハブに適したモードです。PoEハブと通信し、PoEハブから特定の受電デバイスへの〔給電モード〕を制御することが可能ですが、PoEハブからの〔設定情報〕の分析は行いません。実際の受電デバイスへの〔給電状態〕については〔設定情報〕そのものを参照していただくことになります。</p>
受電デバイスの状態	<p>“ON/OFF”などの状態表示には、実際の受電デバイスへの〔給電状態〕が反映されます。</p>	<p>“ON/OFF”などの状態表示には、PoEハブに対して行なった〔給電モード〕制御の結果が反映されます。</p> <p>例えば、PoEハブのポートに受電デバイスが接続されていない場合などの動作環境によっては、PoEハブの〔給電モード〕と実際の受電デバイスへの〔給電状態〕が異なる場合が起こり得ることに注意してください。</p> <p>実際の受電デバイスへの〔給電状態〕を確認するには、別途〔設定情報〕の取得を実施してください。</p>
“ON/OFF”	<p>実際の受電デバイスへの〔給電状態〕を示します。これはPoEハブからの〔設定情報〕に基づきます。〔設定情報〕はON/OFF制御の後、または本装置起動時から一定時間間隔で確認されます。</p>	<p>PoEハブに対して最後に行なった〔給電モード〕制御の結果を示します。</p>

	パナソニックLSネットワーク製品	一般, APRESIA SMNP制御
“NONE”	PoEハブからの〔設定情報〕において、〔給電モード〕はONであるにも関わらず、実際の〔給電状態〕は給電していない状態を示します。たとえば、PoEハブのポートに受電デバイスが接続されていない場合などが含まれます。	本装置起動時からPoEハブに対して〔給電モード〕制御を行っていない状態を示します。
“不明”	〔給電状態〕が不明な状態です。たとえば、通信設定が不足している、PoEハブとの通信エラー、スクリプトが不当であるなどのために〔設定情報〕を取得できない場合が含まれます。	〔給電モード〕制御を行えない状態です。たとえば、通信設定が不足している、PoEハブとの通信エラー、スクリプトが不当であるなどのために制御を行えない場合が含まれます。
“更新”	ON/OFF制御を開始してから、〔給電状態〕を取得するまでの間の状態です。	ON/OFF制御を開始してから、〔給電モード〕制御が完了するまでの間の状態です。
“無効”	受電デバイスの制御が無効に設定されている状態です。	受電デバイスの制御が無効に設定されている状態です。
受電デバイスの制御方法 (WEB)	「PoE出力制御」画面に受電デバイス(1～8)毎に [ON] [OFF] [Reboot] ボタンが表示されますので、制御の内容にしたがってボタンを押下します。 受電デバイスの状態が “NONE”, “不明”, “無効” の場合はボタンが非表示となります。	「PoE出力制御」画面の「PoE 接続機器制御」- 「PoE 出力制御」にて、受電デバイスの種類(1～8)と制御内容(ON/OFF/Reboot)をプルダウンメニューから選択し、その後 [実行] ボタンを押下します。
PoEハブの〔設定情報〕の取得(WEB)	「PoE出力制御」画面の「PoE 接続機器情報」項目にて「PoE HUB設定状態-参照」ボタンを押下します。 「HUB設定状態」画面に移動しますので、「PoE HUB設定情報」項目にて、受電デバイスの種類(1～8)もしくはPoEハブの種類(1～4)をプルダウンメニューから選択し、その後[実行] ボタンを押下します。 必要に応じて、〔設定情報〕のページ数を変更してください。	「PoE出力制御」画面の「PoE 接続機器指定」項目にて、受電デバイスの種類(1～8)もしくは「PoE HUB指定」(1～4)をプルダウンメニューから選択し、その後[実行] ボタンを押下します。 必要に応じて、〔設定情報〕のページ数を変更してください。

4. 受電デバイスの死活監視

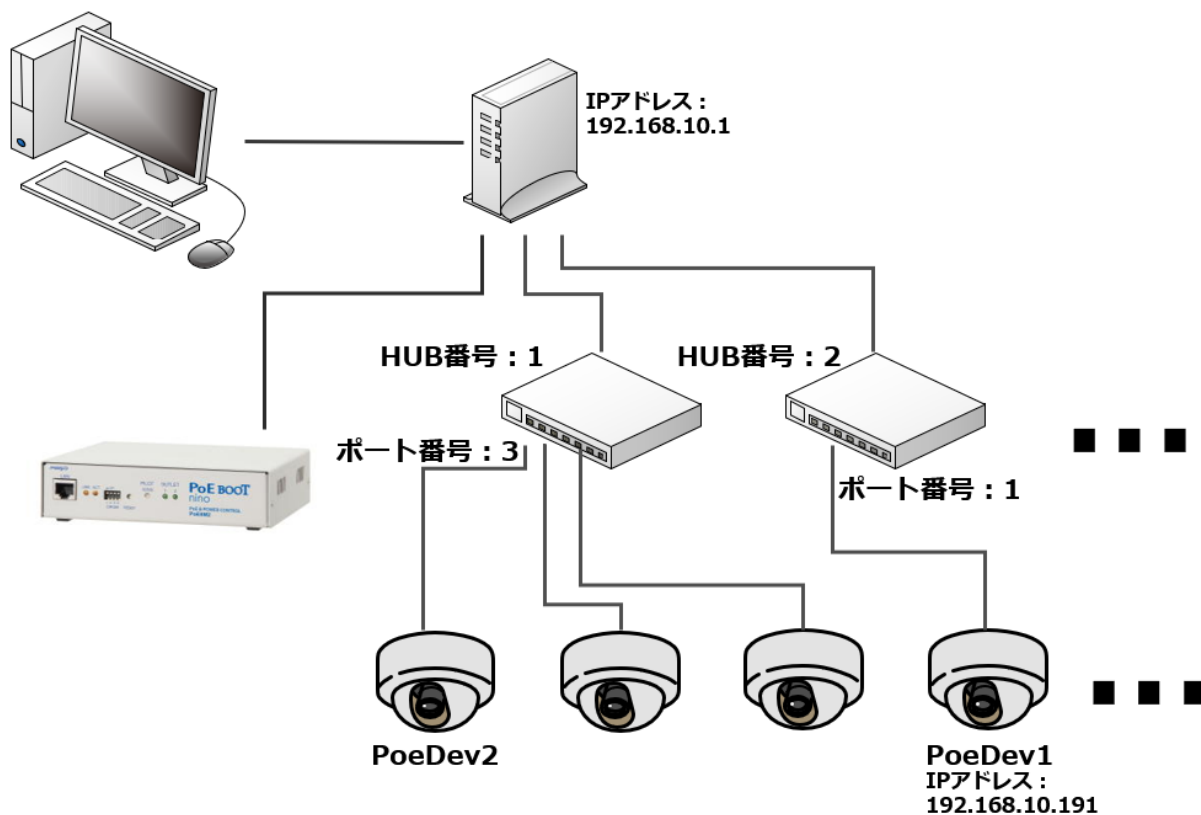
本装置は、受電デバイスのIPアドレスに周期的にPingを送信し、死活監視を行うことができます。



「PoE機器管理設定」の「PoE 機器監視」をクリックし、接続、設定を行います。

詳細につきましては第4章3[2]PoE 機器監視をご覧ください。

<例>



5. PoE機器ポート監視

本装置は、PoE給電ポートに対応する任意のIPアドレスとポート(ターゲットは最大8個)に対して、SYNスキヤンの仕組みを使ったPoE機器ポート監視を行うことができます。

- Ping監視 → ネットワーク層で動作するICMPを使用。IPレベルの確認までしかできない。
- ポート監視 → トランスポート層でサービスを提供しているポート番号で通信ができているかを確認する。

[1] 監視方法

ターゲットに対してSYNパケットを送信します。

以下の条件下で、ポート監視を実行します。

- 1) 受電デバイスが有効。(変数「poeDevControlEnabled」)
- 2) 受電デバイスへの給電状態が「ON状態」, または「NONE状態 かつ poePingMode=0」。

受電デバイスから

- a) 無応答
 - 最大3回, 3秒間隔でリトライを繰り返し, それでも無応答であれば「異常」と判断。
(リトライ回数, 間隔は固定)
- b) 「SYN+ACK」が返ってくる。
 - 「タイムアウト確認時間」後に「正常」と判断。
※「タイムアウト確認時間」設定可能値: 15～60秒
- c) 「SYN+ACK以外」が返ってくる
 - 「タイムアウト確認時間」後に「正常」とするか「異常」とするか, 設定可能。
→ 「SYN+ACKのみ有効」のとき, 「異常」判定。
→ 「SYN+ACK以外も有効」のとき, 「正常」判定。

【設定方法: WEB画面上】

ポート監視実行間隔(分)	1
装置側ポート番号	19100
タイムアウト確認時間(秒)	15
応答判定モード	SYN+ACKのみ有効 ▼

「監視設定-PoE機器ポート監視-PoE機器ポート監視設定」の下部にある「応答判定モード」で設定できます。

【設定方法: Telnetにて】

変数「portScanRespMode」で設定します。

0: SYN+ACKのみ有効 1: SYN+ACK以外も有効

[2] 結果監視

設定されたSYN送信回数に対して、何回NG応答があったかを監視します。そして、NG応答が設定値に達したときにログを残したり、PoE給電リブートを実行したりできます。(メール通知-送信条件フラグにて[Ping]を設定しているとき、メール通知もされます。)

PoE ポートスキャン設定					
機器名称		送信		無効	
PoeDev1		10		10	
1	監視先アドレス	ポート	動作	回数	間隔
		0	無動作 ▼	1	1
ポート監視実行間隔(分)		1			
装置側ポート番号		19100			
タイムアウト確認時間(秒)		15			
応答判定モード		SYN+ACKのみ有効 ▼			

デフォルト値のまま使用した場合、次のようになります。

ポート監視実行間隔(分) 1分

⇒1分おきにポート監視を実施します。

送信 10回

無効 10回

⇒最近10回中、10回ともNG応答だったとき「動作」実行します。

動作 [無動作]

[Logのみ]

[Reboot]

⇒実施する動作を設定します。

⇒[Reboot]設定の時には次の項目が関係します。

回数 1回

間隔 1分

⇒この設定なら、Rebootを1回しか実行しません。

「回数」を2以上に設定した時、「間隔」で設定した分間隔で実行します。

6. 通知

[1] ログ

内 容	情 報	TelnetなどのLOG
PoE給電ON	受電デバイス番号	POEON
PoE給電OFF	受電デバイス番号	POEOF
PoE給電リブート	受電デバイス番号	POEOR
PoE状態確認	9	POEOU
PoE設定情報取得	PoEハブ番号	POESHUB
PoE設定情報取得	受電デバイス番号	POESDEV
Ping送信	受電デバイス番号	PoE ping
Ping無応答	受電デバイス番号	PoE No Echo
死活判定(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Ping
死活判定(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Ping
死活判定(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Ping
死活判定(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Ping
正常/回復	受電デバイス番号	PoE Device Recovered
スケジュール(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Schedule
スケジュール(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Schedule
スケジュール(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Schedule
スケジュール(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Schedule
スケジュール(定時メール)	(なし)	Mail by Schedule ※通常のアウトレットと同じ
スクリプト実行成功	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Done, hub=[PoEハブ番号]
スクリプト実行失敗	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Failed, code=[コード], hub=[PoEハブ番号]
コマンド実行失敗	受電デバイス番号	PoE Command Failed, code=[コード]
(ポート監視)SYN送信	受電デバイス番号	PoE Port Scan Send SYN
(ポート監視)応答なし	受電デバイス番号	PoE Port Scan No Response
(ポート監視)期待外の応答	受電デバイス番号	PoE Port Scan Other Response
(ポート監視)『異常』動作なし	受電デバイス番号	PoE No Action by Port Scan
(ポート監視)『異常』Reboot	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Port Scan
(ポート監視)回復	受電デバイス番号	PoE Device Recovered

[2] メール通知

内 容	情 報	TelnetなどのLOG
死活判定(無動作)	受電デバイス番号	死活監視(PoE: No Action)([受電デバイス名称])
死活判定(REBOOT)	受電デバイス番号	死活監視(PoE: REBOOT)([受電デバイス名称])
死活判定(給電ON)	受電デバイス番号	死活監視(PoE: ON)([受電デバイス名称])
死活判定(給電OFF)	受電デバイス番号	死活監視(PoE: OFF)([受電デバイス名称])
正常/回復	受電デバイス番号	死活監視(PoE: RECOVERED)([受電デバイス名称])
スケジュール(無動作)	受電デバイス番号	スケジュール(PoE: No Action)([受電デバイス名称])
スケジュール(REBOOT)	受電デバイス番号	スケジュール(PoE: REBOOT)([受電デバイス名称])
スケジュール(給電ON)	受電デバイス番号	スケジュール(PoE: ON)([受電デバイス名称])
スケジュール(給電OFF)	受電デバイス番号	スケジュール(PoE: OFF)([受電デバイス名称])
スケジュール(定時メール)	(なし)	定時メール (通常のアウトレットと同じ)
(ポート監視)『異常』動作なし	受電デバイス番号	PORT SCAN(PoE: No Action)([受電デバイス名称])
(ポート監視)『異常』Reboot	受電デバイス番号	PORT SCAN(PoE: REBOOT)([受電デバイス名称])
(ポート監視)回復	受電デバイス番号	PORT SCAN(PoE: RECOVERED)([受電デバイス名称])

●ポート監視のメール送信条件フラグ(mailInfoFlag)は「Ping」と共通になります。

[3] エラーコード

Web画面上で通信結果を確認したときに表示される番号と示されている状態は以下のとおりです。

エラーコード	状態
0	正常／未実行
1	受電デバイスの制御が許可されていない。[WEBでは制御がガードされます]
2	受電デバイスの接続先PoEハブが設定されていない。
3	受電デバイスの接続先ポート番号が設定されていない。
7	ポートを給電有効にしたものの給電がなされていない。
8	制御中の受電デバイスに対して制御を指示した。
9	外部・内部の処理によってコマンドキューがいっぱいになった。
10	PoEハブのIPアドレスが設定されていない。
11	PoEハブのスクリプトが設定されていない。
12	スクリプトの変換に失敗した。
50以降	PoEハブスクリプト実行結果
253	Telnet切断
254	Telnet接続エラー

7. PoEハブ制御用スクリプト

「パナソニックLSネットワーク製品」モード, 「一般」モードは, PoEハブとの通信をTelnet接続にて行います。「Telnet接続の確認」「ログイン」から一連の制御を経て「ログアウト」までの一連の処理をスクリプトによって定義する必要があります。スクリプト終了時, Telnet接続は切断します。

[1] スクリプトについて

画面左側設定項目の「HUB・機器設定」をクリックします。

登録を行う番号をクリックします。

Text : 各番号に登録されている内容を読み出します

Load : 「ファイルの選択」で選択したファイルの中身を登録します
登録した内容は上のウィンドウに表示されます

スクリプト1番にMNOシリーズ(ギガ対応)制御用のスクリプトをデフォルトで設定しています。これらの設定は必要に応じて調整してください。

なお、MNOシリーズの非ギガ対応機については専用のスクリプトを使用します。

弊社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/> にスクリプトの例がございます。必要に応じて修正してご使用ください。

(1) テキスト仕様

- ・テキストサイズは2キロバイトまでです。
- ・テキスト行数は250行までです。
- ・テキストの第1行は「Telnet」とします。
- ・行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れても構いません。
- ・スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- ・2バイト文字にも対応しています。

(2) スクリプト関数詳細

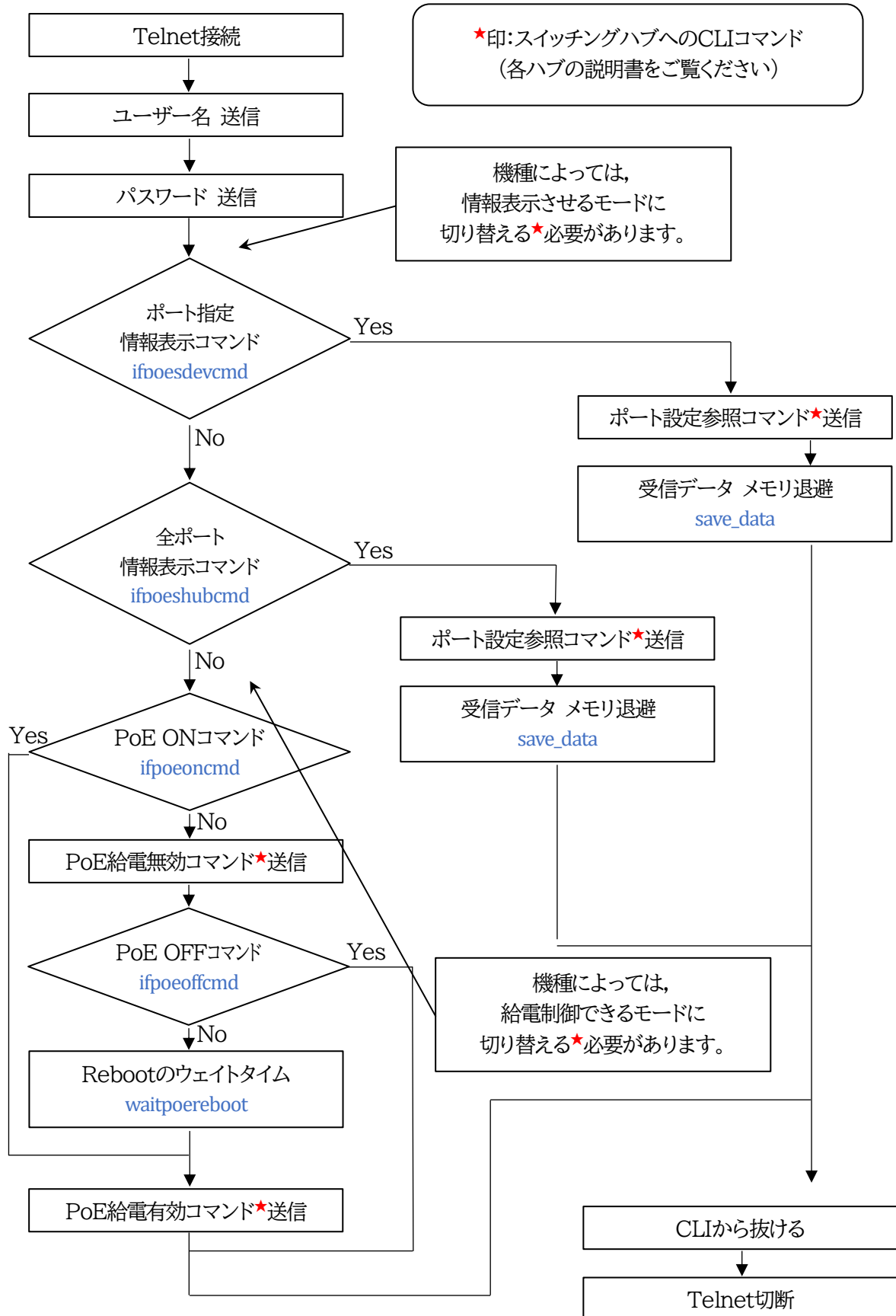
文字列	二重引用符「”」で囲みます。 CRコードは「\r」、LFコードは「\n」で表します。 1個の¥は「¥¥」で、1個の”は「¥”」で表します。 制御コード等は「¥xnn」でnnは2桁の16進数で表します。 (長さは最大63バイト)
timeout 時間	スクリプトタイムアウト。単位は秒, 最大1023まで指定できます。 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。(終了コードは255)
delay 時間	一時停止。単位は100ミリ秒, 最大1023まで指定できます。
goto ラベル	指定[ラベル]に飛びます。
ラベル	ラベルは1～99までの数字とします。 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	スクリプト終了。[終了コード]は0～255。省略は0。 変数「debOlShudownExit」に設定されます。
send 文字列	[文字列]を送信します。
recv	データを受信バッファに受信します。
recv 時間 goto ラベル	データを受信バッファに受信し, [時間]以内に受信できない場合は[ラベル]に飛びます。(時間の単位は秒)
recv 時間 exit 終了コード	データを受信バッファに受信し, [時間]以内に受信できない場合は終了します。
if 文字列 goto ラベル	受信バッファに [文字列]があれば [ラベル]に飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	受信バッファに[文字列]があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	受信バッファに[文字列]が無ければ[ラベル]に飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	受信バッファに[文字列]が無ければ終了します。

/	コメント。各文の終わりにも「/」を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	メッセージ変数「debOlShutdownMsg」に文字列を入れます。
sendname	ユーザーIDをCRコード付きで送信します。 「ログイン用ID」設定を参照します。
sendpassword	パスワードをCRコードつきで送信します。 「ログイン用パスワード」設定を参照します。
sendpoeport	PoEハブのポート番号を送信します。 「接続先PoEハブのポート番号」設定を参照します。CRコードはつきません。
sendpoeoncmd	給電有効コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「給電有効設定コマンドの文字列」設定を参照します。
sendpoeoffcmd	給電無効コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「給電無効コマンドの文字列」設定を参照します。
sendpoestscmd	ポート設定参照コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「ポート設定参照コマンドの文字列」設定を参照します。
ifpoeoncmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドがONコマンドであれば [ラベル] に飛びます。
ifpoeoffcmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドがOFFコマンドであれば [ラベル] に飛びます。
ifpoestscmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドが状態取得コマンドであれば [ラベル] に飛びます。
ifpoesdevcmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドが設定情報取得コマンド(デバイス指定)であれば [ラベル] に飛びます。
ifpoeshubcmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドが設定情報取得コマンド(ハブ指定)であれば [ラベル] に飛びます。
waitpoereboot	Wait時間を待ちます。待ち時間は「PoE給電リセットのOFF/ON間隔」設定を参照します。
getpoeportno goto ラベル	PoE ハブから受信した文字列(行)の先頭からポート番号を取り込みます。取り込んだポート番号は以下のステータス設定関数で使います。 数字で始まらない場合は、ヘッダやコメント行とみなし [ラベル] に飛びます。
setpoestson	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「ON」に設定します。
setpoestsoff	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「OFF」に設定します。
setpoestsnone	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「NONE」に設定します。
save_data	受信バッファ内のデータをメモリに退避します。

if_escstart goto	ラベル受信バッファ内のデータがESCシーケンスで始まる場合には [ラベル] に飛びます。
init poecnt	メモリに退避するページ数を設定します。
dec poecnt goto	ラベルページ数をカウントします。設定されたページ数に達した場合には [ラベル] に飛びます。

[2] スクリプト構成(「一般」モード用)

各PoEスイッチングハブによって差異はありますが、大きな流れは下記のとおりになります。



第12章 仕様一覧

■変数一覧表

変 数 名	初 期 値	内 容	備 考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IPアドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MACアドレス(ReadOnly)	
serialNo		【不使用】	
sysName	Noname	機器名称	全角10文字 半角20文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMPのSET, GETの有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAPの有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP不正アクセス時のTRAP通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP送信回数	1～9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP送信間隔(秒)	1～9
snmpTrapAddr		TRAP送信先アドレス	"," 区切りで8箇所まで
snmpFilterEnabled	0	SNMP用フィルターの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルター有効時許可するアドレス	"," 区切りで10箇所まで
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルター有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GETコミュニティ名	半角20文字以内
setCommunity	public	SNMP SETコミュニティ名	半角20文字以内
trapCommunity	public	SNMP TRAPコミュニティ名	半角20文字以内
sysDescr	*1 文字列	(ReadOnly)	
sysContact	form@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角63文字以内
ifDescr	*2 文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTPリトライ回数	
netRarpRetry	0	RARPリトライ回数	
telnetEnabled	0	Telnetの有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	Telnetのポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェル(rsh)設定	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTYのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTMLファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTPの有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTPのポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTPコマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCPの有効化	0:無効 1:有効

ipFilterEnabled	0	IPフィルターの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr	192.168.10.0	IPフィルターアドレス	”,” 区切りで10箇所まで
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IPフィルターマスク	10箇所
model	PoE8M2	モデル名(ReadOnly)	
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	Telnet通信時の無通信タイマー(分)	1~32767
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウト監視の有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP自動ログアウト時間(秒)	30~30000
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリポート時のOFF時間(秒)	8~3600
debOlMaster	1,2	各アウトレットの連動設定	左→右 1→2アウトレット デフォルト時, 連動無し
debOlPowerOnTime	1,2	各アウトレットのON時間	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOlPowerOnSTime	1,2	本体起動時に適用する電源出力ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOlPowerOnTTime	0,0	スケジュールに適用する電源出力 ON遅延時間(単位:秒)	左→右 1→2アウトレット 0~3600
debOlShutdownTime	0,0	各アウトレットのOFF時間	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOlRebootTime	10,10	各アウトレットのREBOOT時間	左→右 1→2アウトレット 8~3600
debOlWdogAddr		監視先IPアドレス	左→右 1→2アウトレット ”,” 区切りで2箇所まで
debOlWdogSendMax	10,10	Ping監視 送信回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOlWdogNoResMax	10,10	Ping監視 無応答回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOlWdogActCond	1,1	Ping監視 監視対象数	左→右 1→2アウトレット 1~4
debOlWdogAction	0,0	Ping監視 Action	左→右 1→2アウトレット 0:無動作 1:ログのみ 2:リポート 3:On 4:Off
debOlWdogActCount	0,0	Ping監視 Action回数 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット
debOlWdogStatus	0,0	Ping監視判断(ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOlRebootCount	1,1	Ping監視 再Reboot回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOlRebootInterval	1,1	Ping監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→2アウトレット 1~60
debOlActionLimit	0,0	Ping監視 異常時の1時間ごとに繰 り返すリポート回数	左→右 1→2アウトレット 0:無制限
debOlRecvErrorMax	0,0	メールサーバー監視 接続障害回数	左→右 1→2アウトレット 0:機能無効
debOlWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0,	Ping監視 最終応答(ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 ”,” 区切りでアウトレット×4

debOlWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0,	Ping監視 デフォルトゲートウェイ	左→右 1→2アウトレット 0:無効 1:有効 ", " 区切りでアウトレット×4
debOlNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0,	Ping監視 無応答回数 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット ", " 区切りでアウトレット×4
debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0,	Ping監視 IPアドレスからの応答時間(ms)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:Ping応答の最小値 ", " 区切りでアウトレット×4
debOlActionMax	12	Ping監視 異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	Ping監視 無応答検出時間(秒)	5~60
debOlPingInterval	1	Ping監視 送信間隔(分)	1~60
pingInterval2	0,0	Ping監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→2アウトレット 0~60 0:未設定
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用のON遅延時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600
debOlName	Outlet1, Outlet2,	アウトレット名	全角10文字 半角20文字以内
debOlNameV		仮想アウトレットの名称	全角10文字 半角20文字以内
debOlControlActivated	0	電源制御制限同意フラグ	0:非同意 1:同意
debOlControlSAEnabled	0	WEBからの電源操作時, ポップアップでの確認表示有無	0:あり 1:なし
debOlControlGTEEnabled	0	電源制御方式	0:排他制御方式 1:ガードタイム方式
「排他制御方式」では多重ログインは不許可,「ガードタイム方式」では許可となります。「ガードタイム方式」の場合, 他の操作者により, ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため, リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。この点に同意される場合のみ, 電源制御方式を変更してください。			
debOlControlOnGuardTime	10	[ガードタイム方式選択時]ON, REBOOT操作後のガードタイム	1~32767
debOlControlOffGuardTime	10	[ガードタイム方式選択時]OFF操作後のガードタイム	1~32767
portScanInterval	1	ポート監視実行間隔(分)	1~60
portScanMyPort	19100	ポート監視送信ポート ([設定値]~[設定値+99]をインクリメントして使用)	
portScanOpenTimeOut	15	タイムアウト確認時間[OPEN RETRYのリトライアウト確認のためのデレイ(秒)]	15~60
portScanRespMode	0	応答判定モード	0: SYN+ACKのみ有効 1: SYN+ACK以外も有効
poeHubName	PoeHub1,PoeHub2, PoeHub3,PoeHub4	PoEハブ名称	", " 区切りで4箇所 全角10文字 半角20文字以内
poeHubTcpAddr		PoEハブのIPアドレス	", " 区切りで4箇所
poeHubTcpPort	23,23,23,23	PoEハブへの通信用ポート番号	", " 区切りで4箇所
poeHubScript	1,1,1,1	PoEハブへの実行スクリプト番号	", " 区切りで4箇所 1~4
poeHubLoginID	manager	PoEハブへのログイン用ID	", " 区切りで4箇所 半角16文字以内
poeHubPassword	manager	PoEハブへのログイン用パスワード	", " 区切りで4箇所 半角16文字以内
poeHubOnCmdStrings	no peth shutdown	PoEハブ 給電有効設定コマンドの文字列	半角32文字以内
poeHubOffCmdStrings	peth shutdown	PoEハブ 給電無効設定コマンドの文字列	半角32文字以内
poeHubStsCmdStrings	show peth-port	PoEハブ ポート設定参照コマンドの文字列	半角32文字以内
poeDevName	PoeDev1, PoeDev2, PoeDev3, PoeDev4,	PoE給電先デバイス名称	", " 区切りで8箇所 全角10文字 半角20文字以内

	PoeDev5, PoeDev6, PoeDev7, PoeDev8		
poeDevControlEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	PoE給電制御の有効化	“,”区切りで8箇所 0:無効, 1:有効
poeDevConnectedHubNo	1,1,1,1,1,1,1,1	PoE給電先デバイスの接続先ハブ番号	“,”区切りで8箇所 1~4
poeDevConnectedHubPort	0,0,0,0,0,0,0,0	PoE給電先デバイスの接続先ハブ上のポート番号	“,”区切りで8箇所
poeDevAddress		PoE給電先デバイスのIPアドレス	“,”区切りで8箇所
poeDevWdogSendMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	(PoE給電先デバイス用)Ping監視送信回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevWdogNoResMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	(PoE給電先デバイス用)Ping監視無応答回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevWdogAction	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視 Action	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 無動作, 1:ログのみ, 2:リブート
poeDevWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視 Action回数 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス
poeDevWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視監視判断 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 未設定, 1:正常, 2:異常, 3:回復中
poeDevRebootCount	1,1,1,1,1,1,1,1	(PoE給電先デバイス用)Ping監視再Reboot回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevRebootInterval	1,1,1,1,1,1,1,1	(PoE給電先デバイス用)Ping監視再Reboot間隔(分)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~60
poeDevWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視最終応答 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 未設定, 1:正常, 2:異常
poeDevNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視無応答回数 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス
poeDevRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視IPアドレスからの応答時間(ms)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 未設定, 1:Ping応答の最小値
poeDevPingInterval2	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)Ping監視送信間隔個毎(分)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0~60, 0: 未設定
poeScriptName		PoEスクリプト名称	“,”区切りで4箇所 全角10文字 半角20文字以内
poeScriptCnt	2	PoEハブ設定情報読み出しページ数	1~5
poeDevScriptMsg	””	(PoE給電先デバイス用)スクリプトの成功失敗ログ	左→右 1→8 PoE給電デバイス “,”区切り
poeDevScriptExit	0,0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)スクリプトの成功失敗変数	左→右 1→8 PoE給電デバイス “,”区切り
poeUpdateInterval	5	PoE給電設定確認間隔(分)	1~60
poeWaitCmd2Time	10	PoE給電リセットのOFF→ON間隔(秒)	1~60
poeCheckDelay	5	PoE給電設定後の状態確認ディレイ(秒)	1~30
poeForceCheckTime	15	PoE給電設定後の強制状態確認ディレイ(秒)	5~60
poeCtrlMode	0	PoEハブ制御モード	0:パナソニックLSネットワーク製品モード 1:一般モード 3: APRESIA SNMP制御
poePingMode	0	PoEハブPing制御モード	0:NONE/不明時も監視する 1:NONE/不明時は監視しない
poePtScanAddress		ポート監視:SYNパケット送信先IPアドレス	左→右 1→8 PoE給電デバイス “,”区切り
poePtScanPort	0,0,0,0,0,0,0,0	ポート監視:SYNパケット送信先ポート番号	左→右 1→8 PoE給電デバイス “,”区切り
poePtScanAction	0,0,0,0,0,0,0,0	ポート監視:『異常』時の動作	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:無動作 2:Reboot
poePtScanActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	ポート監視:『異常』時の動作実行回数 [Read Only]	左→右 1→8 PoE給電デバイス
poePtScanSendMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	ポート監視:『異常』判断のためのSYN送信回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100

poePtScanInvalidMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	ポート監視:SYN送信回数の中で『異常』と判断するNG個数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poePtScanActCond	1,1,1,1,1,1,1	ポート監視:監視対象数【固定】	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1で固定
poePtScanStatus	0,0,0,0,0,0,0	最近のポート監視結果【Read Only】	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:未設定 1:正常 2:異常
poePtScanRebootCount	1,1,1,1,1,1,1	ポート監視:動作が「Reboot」であった場合の実行回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poePtScanRebootIntv	1,1,1,1,1,1,1	ポート監視:動作が「Reboot」であった場合の実行間隔(分)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~60
poePtScanActionLimit	1,1,1,1,1,1,1	ポート監視:『異常』時の1時間ごとに繰り返すリポート回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:無制限
poePtScanLastStatus	0,0,0,0,0,0,0	ポート監視:最近の応答結果【Read Only】	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 未実行 1: 正常 2: 期待値以外 3: 無応答
poePtScanInvalidCount	0,0,0,0,0,0,0	ポート監視:異常応答回数【Read Only】	左→右 1→8 PoE給電デバイス
poeSnmpAddress		PoE 対応スイッチの IP アドレス	
poeSnmpPort	161,161,161,161	PoE 対応スイッチの SNMP 制御用ポートアドレス	
poeSnmpCommunity	private	SNMP 制御用コミュニティ名 給電制御の権限があるコミュニティ名を指定	
poeSnmpControlOidS	1.3.6.1.4.1.278.108. 1.27.2.1.1.3.0	給電制御用 OID	
poeSnmpStatusOidS	1.3.6.1.4.1.278.108. 1.27.2.1.1.10.0	給電ステータス参照用 OID	
poeSnmpControlOidName	poePortAdminState	給電制御用 OID 名称	全角10文字, 半角20文字以内
poeSnmpStatusOidName	poePortStatus	給電ステータス参照用 OID 名称	全角10文字, 半角20文字以内
poeSnmpPSEOnValue	1	給電 ON 用設定値	
poeSnmpPSEOffValue	2	給電 OFF 用設定値	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schDay	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール曜日(全20個)	0:毎日 1:日 2:月 3:火 4:水 5:木 6:金 7:土
schHour	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール時間(全20個)	0~23
schMinute	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール分(全20個)	0~59
schOutletNo	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアウトレット(全20個)	0:全アウトレット 1~2:アウトレットNo 100:全仮想アウトレット 101~108:仮想アウトレット1~8
schAction	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアクション (全20個)	0:無動作 1:リポート 2:電源ON 3:電源OFF 4:定時メール
ipAdDnsServer		DNSサーバーアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角63文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角40文字以内
mailCommandLoginName		メール コマンドユーザー名	半角63文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1, mailLastEvent	通知メールの内容	最大8 パターンまで SysName/sysLocation/ipAdEntAddr IfPhysAddress/mailLastEvent mailExtraMsg1/mailExtraMsg2 mailExtraMsg3”

mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	8個
mailExtKind	1,1,1,1,1,1,1	メール送信の種類	1:To 2:CC 3:BCC
mailInfoFlag	1,1,1,1,1,1,1 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	①イベント テスト ②イベント Ping ③<不使用> ④イベント スケジュール ⑤<不使用> ⑥<不使用> ⑦<不使用> ⑧<不使用> ⑨<不使用> ⑩イベント ハートビート ⑪イベントログ件数超過	0:無効 1:有効
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandAddrEnabled	1	<不使用>	<不使用>
mailRecvProtocol	1	メール受信プロトコル	1:POP3 2:IMAP
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60
mailApopEnabled	0	APOPの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibAuthEnabled	0	SMTP AUTHの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibAuthMask	7	SMTP AUTHのMask	
mailImapAuthMask	6	IMAP AUTHのMask	
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
mailRecvPort	110	メール受信ポート	0~65535
mailSendPort	25	メール送信ポート	0~65535
mailExtraMsg	¥r¥n	通知メール ユーザー定義文字列	最大3パターンまで 全角21文字 半角40文字以内 (¥r¥nは改行コードの意味)
promptMode	2	Telnetプロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	<不使用>	<不使用>
modemTimeout	10	<不使用>	<不使用>
logMode	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	メールログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTPサーバーのIPアドレス	
ntpInterval	6	NTPサーバーへのアクセス間隔 (×10分)	
syslogEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 2: MPMPパケットフォーマットで送信 3: MSRPパケットフォーマットで送信
ipAdCenter		MSRP/MPMP送信先アドレス	3箇所まで 半角63文字以内
centerPort	5000,5000,5000	MSRP/MPMP送信先ポート番号	
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	

centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
centerCmdHostID		MPMPによるコマンド制御で使用するID	半角英数5字以内 3箇所まで コンマ区切り
centerCmdPassword		MPMPによるコマンド制御で使用するパスワード	半角英数7字以内 3箇所まで コンマ区切り
ipAdTelnetT		TelnetからのTelnet中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTYからのTelnet中継先アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TelnetからのTelnet中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTYからのTelnet中継先ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	Telnet中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
debWakeupPhysAddr	,	WoL MACアドレス	"," 区切りで2箇所まで
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV	,,,,,,	仮想アウトレットWoL MACアドレス	"," 区切りで8箇所まで
ipAdMailRecvServer		メール受信サーバーアドレス	
ipAdMailSendServer		メール送信サーバーアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0:接続していない 1:10.0Mbps 2:100.0Mbps
pingPktSize	16	Pingパケットのデータ長	16~1472
resetCause	0	リセット原因表示	
recvErrorCount	0	Ping監視 メールサーバーへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	PILOT, OUTLET LEDの点滅の有効化	0:無効 1:有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MACアドレス	
hbEnabled	0	ハートビートの有効化	0:無効 1:有効
hbIpAddr		ハートビートの対象IPアドレス	0は無視
hbPort	9100	ハートビートの待ち受けポート	
hbPcPort	9100	ハートビートの送信側ポート確認	
hbInterval	8	ハートビートのパケットを受ける間隔(秒)	1~99
hbRebootTime	30	ハートビートのリブート時間(秒)	1~999
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリブート実行限度回数	1~99
hbAction	0,0	ハートビートのアウトレット毎の動作	0:無効 1:ON 2:ON追従 3:OFF 4:OFF追従 5:リブート
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数(ReadOnly)	
hbActionCount	0,0	アウトレット毎の動作を実行した回数(ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態(ReadOnly)	0:待機中, 1:パケットを受信, 2:タイムアウト発生中 3:動作停止中
hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信したIPアドレス(ReadOnly)	
hbHeartbeatChar	HB	ハートビート文字列	アルファベット2文字
hbHeartbeatSource	0	HB送出元への電源供給アウトレット番号	0:設定せず 1~2:アウトレット番号 2箇所

httpPageType	0	PC, スマートフォン等端末の種類にあわせて画面を切り替えるための設定	
scEnabled	0	サーバー制御有効化	1: 有効, 0: 無効
httpAuthMode	2	HTTP認証モード	0:None 1:Basic認証 2:Digest認証
realmName	PoE8M2	認証領域 (realm) 名	半角英数字20文字以内
nonceTime	180	nonceの有効時間 (秒)	30~30000
searchEnabled	1	RPCサーチソフトからの受信設定	0:無効 1:有効
versionupEnabled	3	オンラインアップデートの有効化	0:無効 1:ローカル更新のみ 2:オンライン更新のみ 3:有効
revision	01	ファームウェアバージョンアップ機能コード	

*1 文字列 Meikyo Remote PoE and Power Controller, PoE8M2 Ver. 4.20A

*2 文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

■ログ一覧表

表示内容(WEB画面)	情報(WEB画面)	TelnetなどのLOG
ログ開始		Log Start
Ping送信	アウトレット no. Ipaddr no.	[アウトレット番号] [監視先番号] ping
Ping無応答	アウトレット no. Ipaddr no.	[アウトレット番号] [監視先番号] No Echo
死活判定(無動作)	アウトレットno.	[アウトレット番号] No Action by [判定内容]
死活判定(REBOOT)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Reboot by [判定内容]
死活判定(アウトレットON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by [判定内容]
死活判定(アウトレットOFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by [判定内容]
正常/回復中	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Recovered
スケジュール(REBOOT)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Reboot by Schedule
スケジュール(アウトレットON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by Schedule
スケジュール(OFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by Schedule
電源操作(ON)	アウトレットALL [ID]	MPON --- [ID]
電源操作(OFF)	アウトレットALL ID [ID]	MPOF --- [ID]
電源操作(REBOOT)	アウトレットALL ID [ID]	MPOR --- [ID]
電源操作(ON)	アウトレットno.ID [ID]	[アウトレット番号] PON --- [ID]
電源操作(OFF)	アウトレットno.ID [ID]	[アウトレット番号] POF --- [ID]
電源操作(REBOOT)	アウトレットno.ID [ID]	[アウトレット番号] POR --- [ID]
電源操作(ON)	アウトレットno.ID [ID]	MPONV --- [ID]
電源操作(ON)	アウトレットno.ID [ID]	[仮想アウトレット番号] POR --- [ID]
メールログイン要求	[通知先アドレス番号]	-->Mail
●「メールログイン要求 0」と表示されている場合、[通知先アドレス]に登録されていないメールアドレスから送信があったことを意味します。(「メールログイン要求」の場合、メール制御コマンドは実行されなかったことになります。)		
メールログイン	[通知先アドレス番号]	==>Mail [通知先アドレス番号]
メールログアウト	[通知先アドレス番号]	<==Mail [通知先アドレス番号]
Telnet接続	IPaddr	-->Telnet IPaddr
Telnet切断	IPaddr	<--Telnet IPaddr
Telnetログイン	IPaddr	==>Telnet IPaddr --- [ID]
Telnetログアウト	IPaddr	<==Telnet IPaddr --- [ID]
TELNET多重超接続	IPaddr	>>x Telnet IPaddr
Webアクセス	IPaddr	-->Web
Webログイン	IPaddr	==>Web IPaddr --- [ID]
Webログアウト	IPaddr	<==Web
設定変更	[変数名] [ID]	variable set ([変数名])
設定書込(WRITE)	[ID]	write to FROM
ハートビート監視(無動作)	アウトレットno.	No Action by HeartBeat

ハートビート監視(REBOOT)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Reboot by HeartBeat
ハートビート監視(ON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by HeartBeat
ハートビート監視(OFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by HeartBeat
NTPサーバー接続	hour minute second	NTP --- hh:mm:ss
NTPサーバー接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
PoE操作(給電ON)	受電デバイス番号	POEON
PoE操作(給電OFF)	受電デバイス番号	POEOF
PoE操作(給電RESET)	受電デバイス番号	POEOR
POEコマンド失敗	受電デバイス番号	PoE Command Failed, code = n
PoE状態確認	9	POEOU
PoE設定情報取得	PoEハブ番号	POESHUB
PoE設定情報取得	受電デバイス番号	POESDEV
Ping送信	受電デバイス番号	PoE ping
Ping無応答	受電デバイス番号	PoE No Echo
死活判定(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Ping
死活判定(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Ping
死活判定(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Ping
死活判定(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Ping
正常/回復	受電デバイス番号	PoE Device Recovered
スケジュール(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Schedule
スケジュール(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Schedule
スケジュール(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Schedule
スケジュール(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Schedule
スケジュール(定時メール)	(なし)	Mail by Schedule ※通常のアウトレットと同じ
スクリプト実行成功	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Done, hub=[PoEハブ番号]
スクリプト実行失敗	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Failed, code=[コード], hub=[PoEハブ番号]
コマンド実行失敗	受電デバイス番号	PoE Command Failed, code=[コード]
(ポート監視)SYN送信	受電デバイス番号	PoE Port Scan Send SYN
(ポート監視)応答なし	受電デバイス番号	PoE Port Scan No Response
(ポート監視)期待外の応答	受電デバイス番号	PoE Port Scan Other Response
(ポート監視)『異常』動作なし	受電デバイス番号	PoE No Action by Port Scan
(ポート監視)『異常』Reboot	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Port Scan
(ポート監視)回復	受電デバイス番号	PoE Device Recovered

サーバー接続開始	サーバー接続開始 IPaddr	SC Start IPaddr
サーバー接続終了	サーバー接続終了 IPaddr	SC Stop IPaddr
サーバー接続異常	サーバー接続異常	SC Connection Failure
サーバー接続再開	サーバー接続再開	SC Reconnect

- ・[]で括った内容は、実際の数字や文字等が入ります。
- ・[ID]は操作を行ったユーザーのIDを示します。
- ・コマンド実行者とログ閲覧者が同じユーザーの場合は、コマンドによってはIDが表示されない場合があります。

■制御コマンド一覧表

「Telnet」欄の「A」:Admin権限 「S」:Supervisor権限

「メール」:メール制御

「ダイレクト」:ダイレクトWEBコマンド A:Admin S:Supervisor C:Control I:Ident

制御コマンド	内 容	Telnet	メール	WEB
MPON	全アウトレットの電源出力開始	A	○	AC
MPOF	全アウトレットの電源出力停止	A	○	AC
MPOR	全アウトレットのリブート(電源リブート)	A	○	AC
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~2	A	○	AC
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~2	A	○	AC
PORn	指定されたアウトレットのリブート(電源リブート)n=1~2	A	○	AC
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~2	A	○	AC
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信します。	AS	○	AC
PONVx	debWakeupInterval後にマジックパケットを送信します。 (x=1~8, xは仮想アウトレット番号)	AS	○	AC
BPONx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットの電源出力開始 (x=1~8, xはグループ番号)	A	×	×
BPOFx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットの電源出力停止 (x=1~8, xはグループ番号)	A	×	×
BPORx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート) (x=1~8, xはグループ番号)	A	×	×
OLSn	死活監視状態の表示 n=1~2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No. アウトレット番号[1~2] Power 電源状態[0:Off 1: On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	AS	○	ASCII
VER	バージョンの表示	AS	○	ASCII
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答:mm 左側からアウトレット1~2 m=0:OFF 1:ON	AS	○	ASCII

XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答:ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1~2 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマー残り時間	AS	○	ASCII
ID	ユーザーIDの変更 1:Normal Admin権限でのID名を変更します。 2:Supervisor Supervisor権限でのID名を変更します。	AS	×	×
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。 1:Normal Admin権限のパスワードを変更します。 2:Supervisor Supervisor権限のパスワードを変更します。	AS	×	×
DATE	年月日設定 例)DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日	AS	○	×
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス, 変数「remoteTelnetPortT」のポートにTelnetクライアントとして接続します。【中継を停止するには、通常と同じくexitやqで切断できます。】一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。	AS	×	×
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例)TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒	AS	○	×
PING	ICMPを4回送信します。 例)PING [IPアドレス]	AS	×	×
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps	AS	○	×
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。	AS	×	×
PROMPT=n	0(プロンプト表示無し) 1(「>」のプロンプト表示) 2(「機器名>」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。	AS	×	×
POEOS	受電デバイスのステータスを表示する。 戻り値:mmmmmmmmmm 左側から受電デバイス1→8 m=0:OFF 1:ON	AS	○	ASCII
POEOU	給電状態の確認を実施し、取得する。 ※制御モードを「一般」にしているときは実行できません。	AS	○	ASCII
POESHUBn	指定したPoEハブの設定情報を取得する。	AS	×	×
POESDEVn	指定した受電デバイスの設定情報を取得する。	AS	×	×
POESDISP	取得した設定情報を表示する。 ・実行状況「有効な情報がない」、「実行中」or「情報取得中」、 「取得済」 ・「取得済」のとき、実行結果「Sts」 PoEハブの構成 (どのポートにどの受電デバイスが紐付けされているか) ・「取得済」「Sts=0」のとき、経過時間 or 実行時刻(時刻設定後のみ) 設定情報	AS	×	×

POEONn	受電デバイスへの給電開始	A	○	AC
POEOFn	受電デバイスへの給電停止	A	○	AC
POEORn	受電デバイスのリブート	A	○	AC
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。	AS	○	×

■仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様		ARP, TCP/IP, UDP/IP, ICMP, POP3, IMAP BOOTP, DHCP, Telnet, SMTP, APOP NTP, HTTP, SNMP
	LAN制御方法	SNMPマネージャー	
		Telnet	
		Web	
機能	電源制御／管理	電源ON	
		電源OFF	
		電源リブート	
		電源状態取得	
		グループ制御	
	PoE給電ポート 制御／管理	給電ON	
		給電OFF	
		給電リブート	
		状態取得	
	スケジュール機能	週間スケジュール機能(20個)	
		NTPによる時刻同期機能	
		スケジュールON/OFF機能	
	状態監視	ICMP送信	
		通報機能:SNMPトラップ, UDPパケット	
		Mail通知	
		ハートビート	
	WoL対応機能		あり:マジックパケット送信
ハード仕様	インターフェース		10Base-T/100Base-TX 1 (RJ45) (IEEE802.3に準拠)
	定格	最大制御出力	AC100V 10.5A (1050W)
		最大消費電力	5.0 W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境		温度 0～40℃
			湿度 20～85%(ただし結露なきこと)
	外形寸法 (脚ゴム除く)		160(W) x40(H) x160(D) mm
	重量		約1.2kg
規 格	特定電気用品認証品(電気用品安全法), RoHS2指令準拠		

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14

東京フェライトビル4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<https://www.meikyo.co.jp>

ご注意

- (1)本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2)本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました但、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4)本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5)本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6)弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

PoE BOOT nino PoE8M2

取扱説明書 2023年 10月 第4.1a版

版權所有 明京電機株式会社

※ PoE BOOT nino関連 特許第 6945416 号(令和3年9月16日登録)
「電源制御装置、制御方法、制御プログラム、および制御システム」